

払沢の滝周辺整備改定計画

平成 31 年 3 月

檜原村

目 次

1. はじめに	1
(1) 計画改定の目的	1
(2) 計画対象範囲	1
2. 計画条件の整理	2
(1) 払沢の滝周辺の整備状況	2
(2) 上位計画・関連計画	5
(3) 平成 22 年度計画の達成状況	9
3. 払沢の滝の利用動向の整理	17
(1) 入込客数の推移	17
(2) 集客イベントの開催概要	20
(3) 来訪者アンケート調査	22
4. 現状の課題と整備の方向	32
(1) 地元関係者ヒアリング	32
(2) 観光客モニターによる評価	34
(3) 課題の整理と整備の方向	36
5. 払沢の滝周辺整備計画	38
(1) 施設整備計画	38
(2) 利用促進計画	48

1. はじめに

(1) 計画改定の目的

「払沢の滝周辺整備計画」は、檜原村を代表する観光・交流資源である払沢の滝を対象に、観光客のニーズに対応した散策ルート整備の基本的な考え方や地域活性化に向けて今後取り組むべき方策として、平成22年度に策定された(以下、「平成22年度計画」という)。

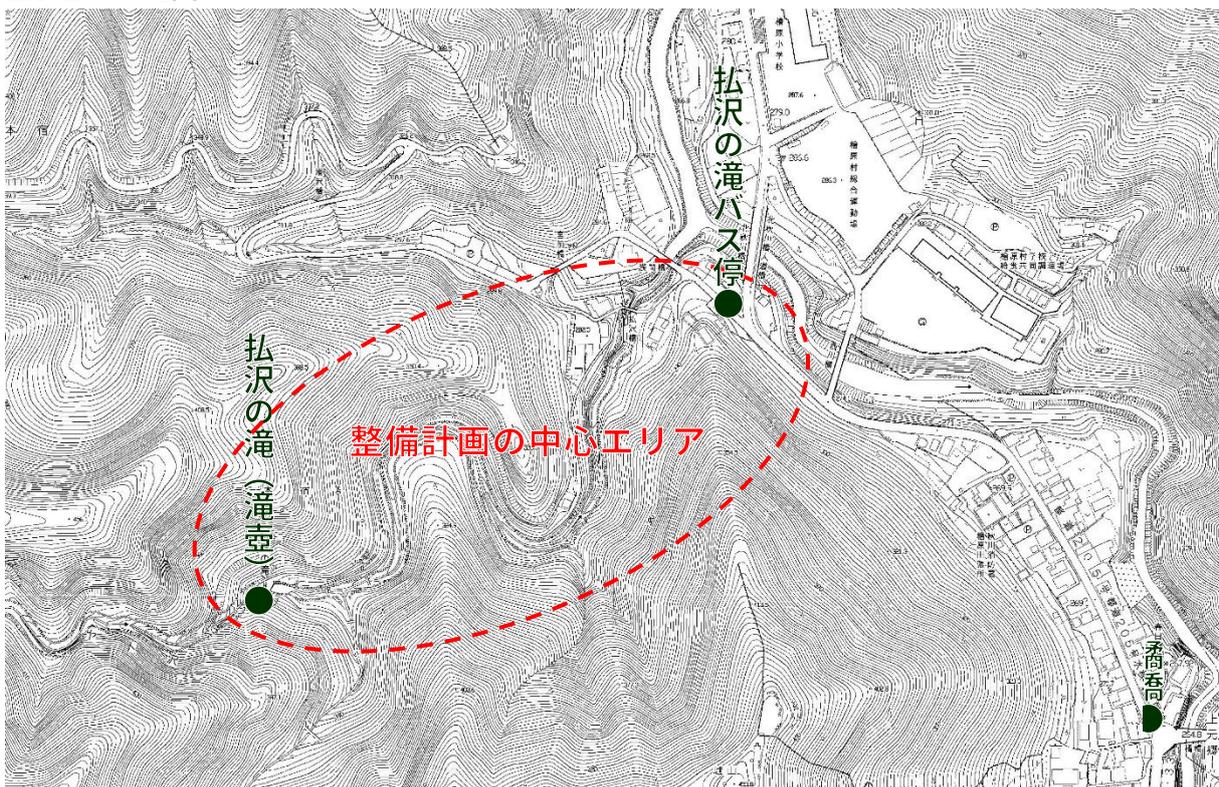
その後、8年が経過し、上位計画にあたる「第5次檜原村総合計画」が平成26年3月に策定され、「檜原村人口ビジョン・総合戦略」(平成28年3月)や「檜原村観光ビジョン」(平成28年3月)により村の観光施策の指針が示されるとともに、平成30年4月に「檜原村エコツーリズム推進全体構想」が全国で13番目に認定されるなど、新たに策定された上位計画や関連計画に即した整備計画の見直しが課題となっている。

払沢の滝周辺整備改定計画(以下「本改定計画」という)は、平成22年度計画の充実を図るとともに、村の新たな観光振興の方向性を踏まえつつ、来訪者の利用実態を的確に捉えて、払沢の滝をさらに魅力ある観光資源とするための整備計画を策定することを目的とする。

(2) 計画対象範囲

払沢の滝周辺整備計画の計画対象範囲は、払沢の滝バス停から滝壺までの歩道を中心とする本宿地区とする。なお、アクセスおよびサイン計画や、遊歩道整備等の検討では、上元郷地区および下元郷地区を計画対象範囲に含める。

■計画対象範囲



2. 計画条件の整理

(1) 払沢の滝周辺の整備状況

払沢の滝は、払沢の流れと直行する断層線によって切られた断層崖によってもたらされた4段の滝であり、その落差は約 60m（一の滝：23.3m、二の滝：16.8m、三の滝：13.7m、四の滝 2.3m、その他傾斜部 2.9m）である。

周囲は雑木に覆われており、4段すべてを眺めることはできないが、間近に見ることができる一の滝は深い滝壺を持ち、滝の姿も美しく、秩父多摩甲斐国立公園に指定されている美しい自然を有していることから、東京で唯一「日本の滝百選」に選ばれ、「多摩川 50景」にも選ばれている。

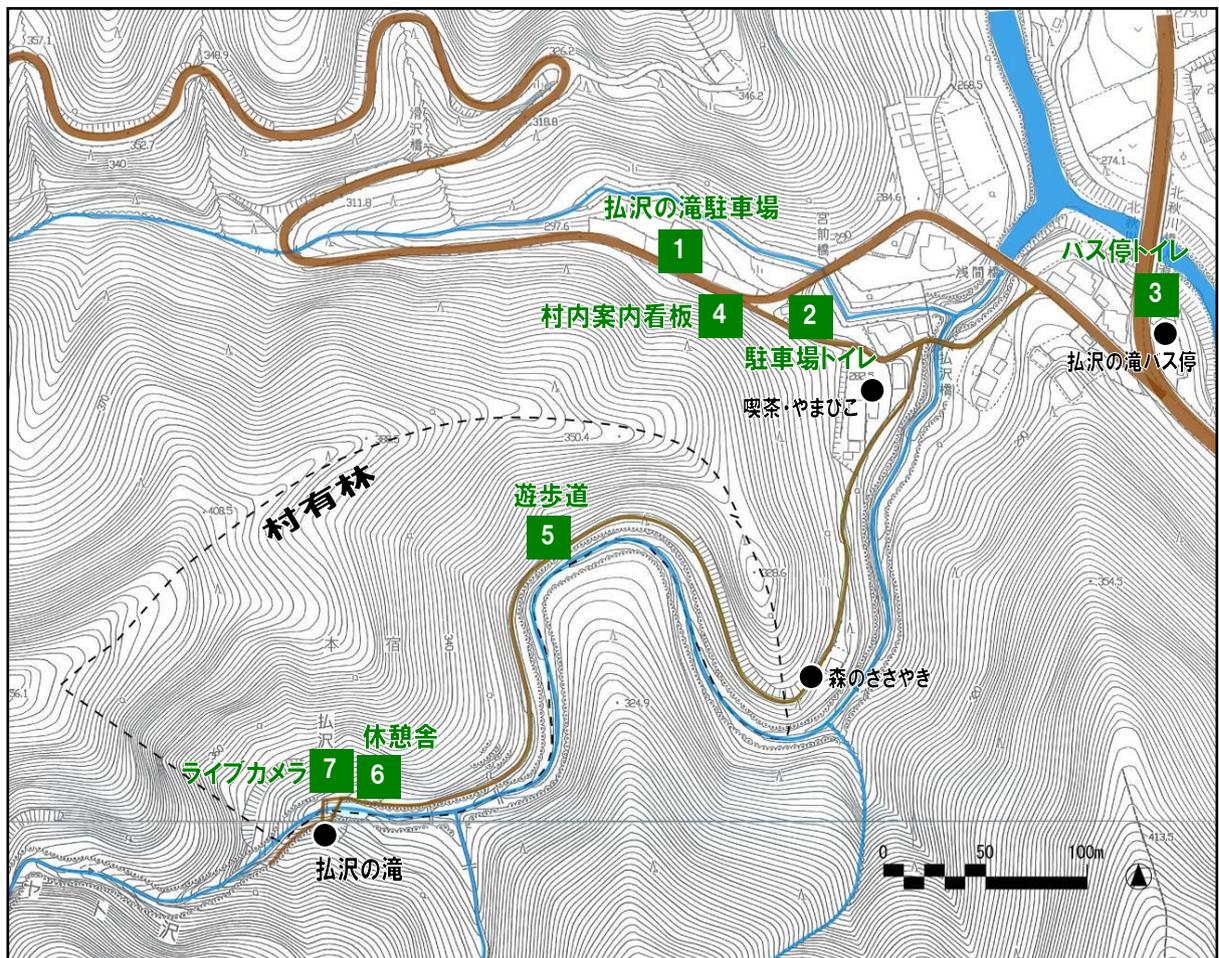
また、駐車場またはバス停から 15 分で到達できる身近さと、冬季に完全結氷する珍しさもあり、檜原村を代表する観光資源になっている。



弘沢の滝周辺では、国立公園内への利用者の利便性を確保するため、以下のような公共施設を整備している。

- 1 弘沢の滝駐車場
- 2 駐車場トイレ
- 3 バス停トイレ
- 4 村内案内看板
- 5 遊歩道
- 6 休憩舎
- 7 ライブカメラ

■弘沢の滝周辺の公共施設の整備状況



■ 払沢の滝周辺の公共施設の整備状況



1 払沢の滝駐車場



2 払沢の滝駐車場トイレ



3 払沢の滝バス停トイレ



4 村内案内看板



5 遊歩道



6 休憩舎



7 ライブカメラ

(2) 上位計画・関連計画

本改定計画の上位計画として、「第5次檜原村総合計画」、「檜原村人口ビジョン・総合戦略」、「檜原村観光ビジョン」が挙げられ、村の自然資源を活かした観光地整備およびエコツーリズムの推進に取り組むとしている。

また、関連計画としては、「「ふるさとの森」全体整備計画・管理運営計画」、「檜原村エコツーリズム推進全体構想」が挙げられ、他の自然資源および観光資源と連携した周遊観光の推進や、弘沢の滝がエコツーリズムの拠点の一つとなるための環境整備やソフト事業について検討することが課題となる。

■第5次檜原村総合計画（平成26年3月）

将来像	森と清流を蘇らせ 未来に誇れる活力のある村
基本方針	第3節 森や水と調和した産業振興の村づくり 3-3 自然を活かした観光振興
施策内容	3-3-① 観光基盤の整備 ①観光地へのアクセスポイントの駐車場整備・修繕や駐車スペースの確保、トイレの整備・維持管理などに努めます。 ②沿道樹木の手入れや植栽、沿道環境の美化など道路と周辺環境に合わせた景観づくりを推進します。 ③既存の登山道の維持・管理を推進するとともに関係機関と調整し、新しい登山道整備を検討します。 ④遊歩道の整備や河川への連絡道、案内板の設置など観光地の道路環境整備を計画的に推進します。 ⑤新たな観光資源の開発を検討します。

■檜原村人口ビジョン・総合戦略（平成28年3月）

基本理念	東京のふるさと 檜原村
基本目標	1. 地域固有の資源を活かして仕事を創り出す村づくり
具体的な施策	1-3 自然を活かした観光振興 (1) エコツーリズムの推進・観光基盤の整備 ・観光地へのアクセスポイントとして駐車場の整備・修繕や駐車スペースの確保、トイレの整備・維持管理などに努めます。 ・沿道樹木の手入れや植栽、沿道環境の美化など道路と周辺環境に合わせた景観づくりを推進します。 ・檜原村、観光協会、地域住民と連携し、共同のPR活動やイベント開催などの事業活動を推進します。

■檜原村観光ビジョン（平成 28 年 3 月）

理 念	次世代へ守り伝える村の宝
目 標	1) 訪れ暮らしたくなる村を実現 2) 地域から新しい産業を創造 3) 未来の子孫に誇れる村を構築
基本方針	1) 地域と人材を育てる観光村づくり 2) 宝を活かした観光村づくり 3) 安全と安心が整備された観光村づくり
基本施策	5) 観光村づくりのための整備 ・観光地の駐車場やトイレなどの整備・維持管理 ・沿道の樹木の手入れや植栽、美化など周辺環境に合わせた景観づくり ・登山道の維持・管理の推進と新しい登山道整備の検討 ・遊歩道の整備や河川への連絡道、案内板の設置などを推進

■「ふるさとの森」全体整備計画・管理運営計画（平成 22 年 3 月）

基本方針 村内外に協力を求め、森づくり活動を持続させるためのしくみを構築する。

管理運営の方針（＝「継続管理」）

森づくりの初心者が、楽しみ、学びながら森づくりに参加することで、森の管理ができる仕組みをつくる。

森の空間管理の方針（＝教育の場としての役割を担う）

村内学校における自然体験活動や森づくり活動の推進と村外の企業、学校の演習地利用。

産物の利活用の方針（＝地域おこしに結びつける仕組みづくり）

森の産物を村内の関係施設で利用することで、地域おこしに結び付ける。

施設整備計画

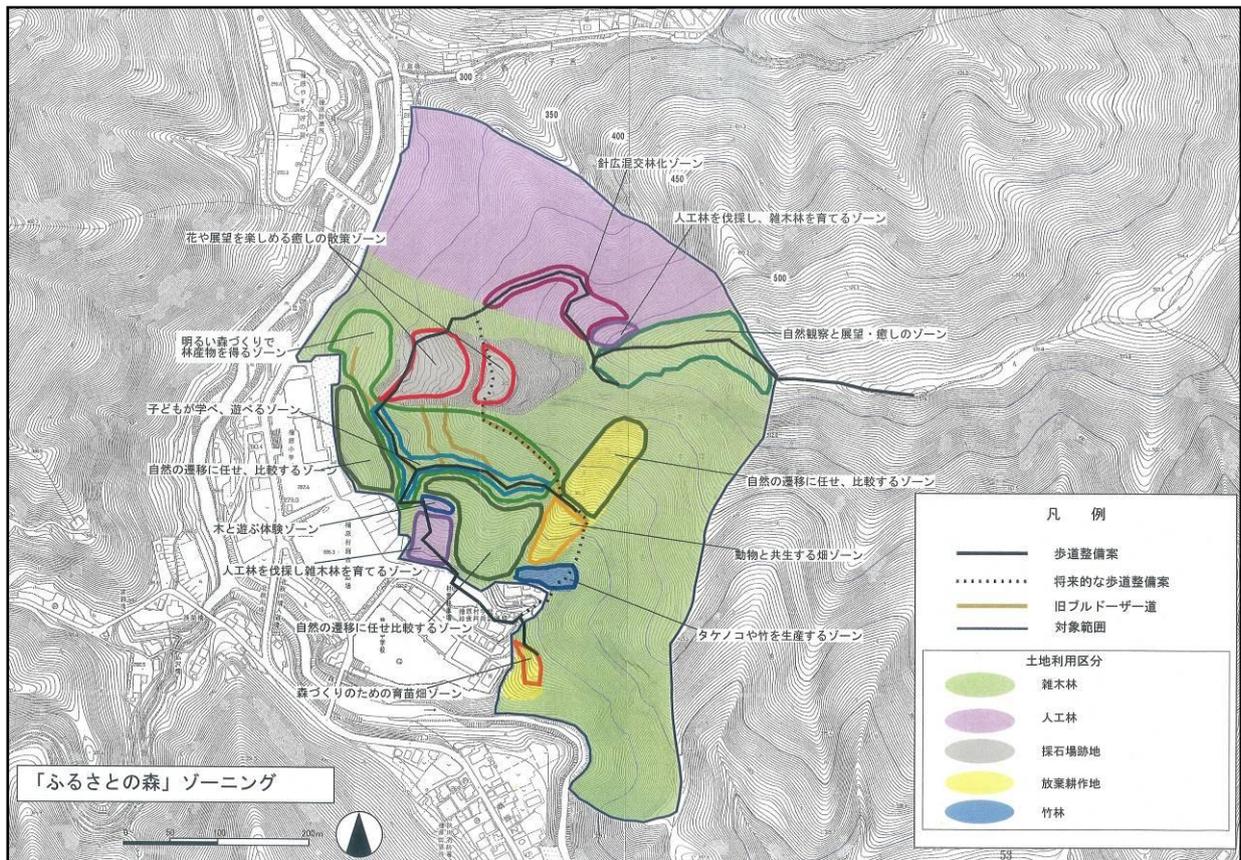
（1）歩道整備と休憩場所の設定

本地域は地形的に急傾斜地が多いため、歩道整備は調査ルート（平成 22 年 1 月 18 日調査）を基本に設定する。また、歩道整備と同時に、傾斜が特に緩やかな「花や展望を楽しめる癒しの散策ゾーン」と「自然観察と展望・癒しのゾーン」にはそれぞれ休憩場所を設ける。将来的には竹林・民家付近から畑に入る道、採石跡地上段部分を通行するための歩道作りを行い（次頁点線部分）歩道のループ利用を検討する。

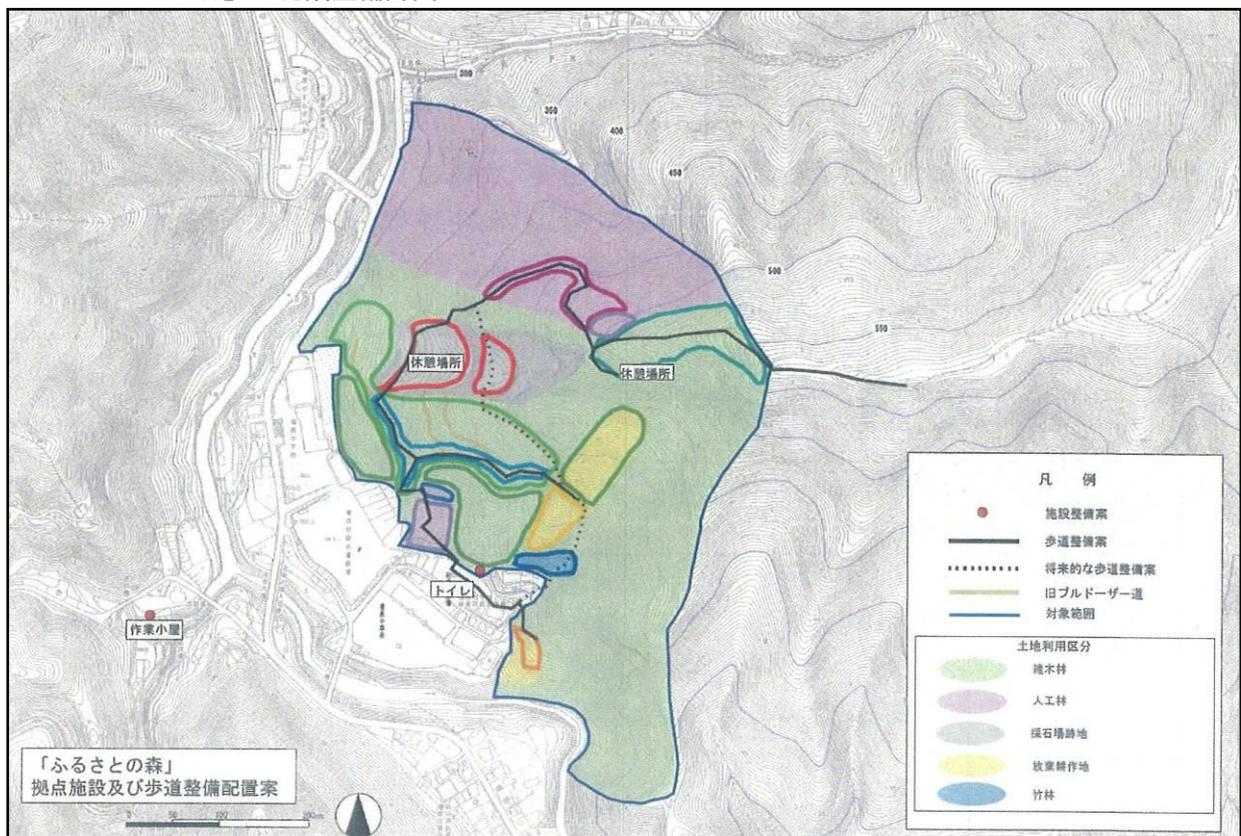
（2）拠点施設整備

- ・外の近隣村有地に「作業小屋※」を設置する。
※：薪割り機、ポータブルチップパー、簡易炭焼き窯の倉庫も兼ねる。
- ・村営駐車場付近の入口部分に「トイレ（兼手洗い場）」を設置する。
- ・山頂付近と採石場跡地に休憩スペースを設け、森づくり活動の中でベンチなどを徐々に設置していく。

■ 「ふるさとの森」のゾーニング



■ 「ふるさとの森」の施設整備計画



■檜原村エコツーリズム推進全体構想（平成30年4月）

- 目 標**
- 1) 地域と人材を育てるエコツーリズムによる観光村づくり
 - 2) 資源を活かすエコツーリズムによる観光村づくり
 - 3) 安全と安心に配慮した観光村づくり

推進の基本方針

3. 村の観光産業を興す

エコツーリズムに基づく観光推進のしくみを作ることで、村の産業を興し、村の持続的な発展に繋げ、雇用の場の創出と安心して生活できる持続的な居住環境の実現を目指す

エコツーリズム推進の重点

- ②地域との交流や地域資源を活かした体験型のプログラムづくりを推進する
- ③檜原村エコツーリズムの振興に向けた情報集約・情報発信を推進する
- ④住みやすくまた来たくなる村づくりを推進する

主なガイダンス及びプログラムの内容

【自然観察・体験系】

- ①天然記念物、貴重な植生等、新緑、紅葉、巨樹・名木、野草・花などを知り楽しみガイドから解説を受けながら自然を体験するエコツアー
- ④四季折々の山岳を巡るトレッキングや自然や歴史を楽しむ体験エコツアー

(3) 平成 22 年度計画の達成状況

平成 22 年度計画の策定から平成 30 年度までの払沢の滝周辺整備の達成状況を以下に整理する。

1) 施設整備計画

施設整備計画の達成状況を以下に整理する。

■施設整備計画の達成状況（その1）

凡例：○実施、△一部実施、×未実施

整備項目		整備概要	達成状況
① 景観・視 点場 づくり	a.滝壺付近の観瀑台	ライトアップ時の照明設備を設置する平場を活用し、滝壺から登る階段と、転落防止用の柵を設置する。	×
	b.休憩舎裏斜面の観瀑台	休憩舎裏の斜面に平場を確保するための簡便な整地を行い、木製のベンチとロープによる転落防止柵を設置する。	×
	c.右岸側遊歩道と木橋	往復で異なるルートを選択できるように、新たな橋と遊歩道を整備する。	×
	d.滝壺付近の階段護岸	川に向かって緩やかに傾斜する階段護岸を整備する。	×
	e.滝壺付近の休憩舎	払沢の滝の全体像が見える最初の場所であるため、質が高く、シンプルなデザインの木造の休憩舎とする。	○ 東京都による 整備
	f.忠助淵付近の休憩デッキ	既存の遊歩道から新規整備の橋を渡った場所に、渓谷に張り出して忠助淵を覗き込めるように整備する。	×

【①－e.滝壺付近の休憩舎】

[整備前]



[整備後]



滝壺前の休憩舎を改修

■施設整備計画の達成状況（その2）

凡例：○実施、△一部実施、×未実施

整備項目		整備概要	達成状況
② ユニバーサルデザイン	a.遊歩道における安全柵	老朽化が進み改修が必要な柵や、払沢の滝の自然環境にそぐわない柵を更新し、安全性を確保するとともに、景観面での改善を図る。	△ 木調の安全柵に改修 (一部未実施)
	b.急傾斜部における手すり	水道組合の取水口付近の急傾斜路と滝壺に至る階段の2箇所に、2段の手すりを設置する。	△ 1箇所設置
	c.既存遊歩道の段差解消と舗装	最も奥の既存の休憩舎付近は整地にとどめ、「森のささやき」までの区間は碎石舗装等の石系素材、その先は土系素材を活用するなど、環境に応じて工法を選択する。	○ 全区間にウッドチップを敷設
	d.既存サイン	駐車場のトイレ前と滝壺付近の右岸側園地に設置されているサインを中心に、文字が読めなかったり老朽化が激しいサインは撤去し、更新が必要なサインは、デザインの統一化やサインの集約化を図る。	△ 村内案内看板を付替え 注意喚起サインの新規設置
	e.車両系サイン	奥多摩方面と武蔵五日市方面のどちらからも分るように、橋橋交差点の手前から、橋橋交差点、バス停前交差点、浅間橋手前交差点に誘導サインを設置する。	×
	f.歩行系サイン	本宿地区の橋橋から払沢の滝までの誘導サインを充実させる。	○ 都道に設置
	g.案内・解説サイン	周遊観光客向けの情報としては、滝と渓谷を楽しむ景観スポット、花や紅葉の見所、遊歩道のバリアフリー情報等が考えられる。ハイキング客向けの情報としては、山野草の情報、ハイキングルート情報など、森林浴・セラピー客向けの情報としては、マイナスイオン濃度、休憩スポットなどを表示することが考えられる。	×
	h.駐車場の拡張	現在の駐車場の河川側に舗装面を拡張し、駐車場の面積を倍増させる。	△ 東京都に要望の結果、改修予定
	i.滝入口付近の駐車場	払沢の滝入口バス停付近に新規駐車場を整備し来訪者の消費を促す。	×
	j.払沢園裏の身障者用駐車場	払沢園裏の空地进行を身障者用駐車場として整備する。	×

【②－ a. 遊歩道における安全柵】

[整備前]



[整備後]



森のささやき手前にある壊れた安全柵を改修



ロープ柵を木調の安全柵に改修



ガードレールを木調の安全柵に改修



休憩舎前の金網を木調の安全柵に改修

【②-b. 急傾斜部における手すり】

[整備前]



[整備後]



階段に手すりを設置

【②-c. 既存遊歩道の段差解消】

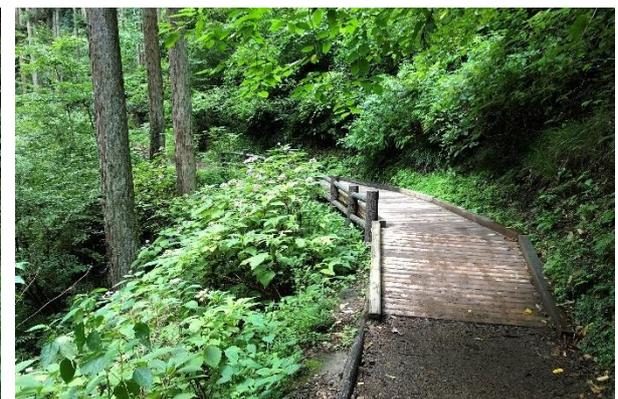
[整備前]



[整備後]



ウッドチップの敷設



木製の橋の設置

【②-d. 既存サイン】

[整備前]



[整備後]



村内案内看板：情報を更新して付替え

[撤去]



滝壺付近にある解説サイン

[新規設置]



左：水場付近に設置



右：滝壺付近に設置

【②-f. 歩行系サイン】



橘橋交差点に設置してある歩行系サイン



バス停付近に設置してある歩行系サイン

■施設整備計画の達成状況（その3）

凡例：○実施、△一部実施、×未実施

整備項目		整備概要	達成状況
③ 歩行ネットワーク	a.ウォーキングルートの誘導サイン	吉祥寺滝と中山の滝を結ぶ「滝めぐり」や桜等の「花巡り」、檜原城趾、石仏、弘法の井戸等の「歴史巡り」などのテーマルートを設定し、歩行者を誘導するためのサインを主要な交差点に設置する。	×
	b.休憩施設	ウォーキングルート上の景色の良い場所を中心に、木製のベンチや休憩舎等を整備する。	×
	c.ふるさとの森と上元郷を結ぶ遊歩道	遊歩道は安全性を確保しつつも、人が通行するための最低限の整備にとどめ、ふるさとの森の整備状況や利用状況に合わせて、舗装整備の実施について検討する。	○ 「天正の道」 として整備
④ 情報遊観光拠点	a.滝壺周辺から時坂峠に抜ける歩道の整備	払沢の滝の休憩舎付近から、新たな観瀑台を経由して、尾根に沿って時坂集落に至る山道を整備する。尾根から払沢の滝に下りていく場所など、主要なポイントに時坂峠と払沢の滝の方向を示す道標を設置する。	×
	b.観光協会の観光案内所の整備	浅間橋付近の空き家を活用することが可能であれば、第一駐車場と一体的に観光案内所を整備することが考えられる。	×

【③-c. ふるさとの森と上元郷を結ぶ遊歩道】



古道「天正の道」の整備

2) 利用促進計画

利用促進計画の達成状況を以下に整理する。

■利用促進計画の達成状況（その1）

凡例：○実施、△一部実施、×未実施

項目	概要	達成状況
1) 景観・視点場の魅力を高める取組み	a.人工林の管理	間伐によって生じたオープンスペースを活用し、林床植生の育成を促すような施業と施す。 △ 村有林の間伐を一部実施
	b.自生種の花の増し植え	林床植生の一つとして、ヤマブキ等の花を楽しめる低木を増し植えする。 ×
	c.遊歩道沿道の落葉広葉樹の植栽	人工林の中に、単木としてヤマモミジ等の落葉広葉樹を植栽し、周囲の針葉樹景観から新緑や紅葉が浮き立つようにする。 ×
2) 歩行ネットワークの利用促進	a.小中学校の桜との連携	檜原小学校、中学校の見応えのある桜を含むコースを設定し、花見で周遊する観光客の立寄りを促す。期間限定で桜に関する商品を各店舗で販売することも考えられる。 ×
	b.ふるさとの森との連携	ふるさとの森で展開される事業の中で、払沢の滝を含むプログラムを実施することにより、両施設の相乗効果を高める。 △ 体験プログラムあり
	c.都道沿道の花の植栽	都道沿道の各住戸や店舗の軒先を花で修景したり、空地を花のポケットパークとして整備し、本宿地区全体を花の名所にする。 ×
	d.店舗の位置や特徴を示したマップづくり	本宿から下元郷までの各店舗の特徴を示した散策マップを作成し、観光案内所や各店舗で情報提供する。 △ 村全体のグルメガイド「ひのはら村のごはん」の一部に掲載
	e.店舗のミュージアム化	商品販売の他に、店主自慢の品々を自慢するための小ギャラリーを各店舗に設け、来店やコミュニケーションのきっかけとする。 ×
	f.払沢の滝来訪者の志向に合った商店・商品の開発	払沢の滝の来訪者に対して定期的にアンケート調査を実施して周辺地域の店舗に対するニーズを把握し、調査結果に基づいて各店舗で店舗開発や商品開発を進める。 ×

■利用促進計画の達成状況（その2）

凡例：○実施、△一部実施、×未実施

項目		概要	達成状況
3) 観光周遊を促進する取組み	a. 払沢の滝発・周遊観光ルート の情報発信	払沢の滝を起点とする周遊観光の テーマ及びルートを設定し、ルート マップで情報発信する。テーマとし ては、「滝めぐり」「森林セラピー」 「山里文化」などが挙げられる。	△ 滝巡りのエコツアー 企画あり
	b. 浅間尾根ハイキングルート の情報発信	払沢の滝から時坂峠に抜ける遊歩 道が整備された段階で、ハイキング マップを更新し、払沢の滝を含むハ イキングルートを一PRする。	○ 「檜原村ハイキ ングガイド」の 中で紹介
	c. 各店舗における観光案内の 推進	払沢の滝周辺の店舗に観光パンフ レットや周遊マップ等を設置し、各 店舗のスタッフが村内周遊の立寄 りを促す情報提供を行う。	×
	d. 四季の里における観光案内機 能の強化	檜原村農林漁協観光施設に指定さ れている「ひのはら四季の里」にお いて、観光案内の窓口としての機能 を強化する。	△ 観光パンフレット を設置
4) 払沢の滝周辺整備を推進する取組み	a. まちづくり組織の設立	本宿地区の若年層を含むまちづく り組織をつくり、村や観光協会が組 織運営に関する情報提供を行う。	○ 冬まつり実行委 員会として実施
	b. まちづくり組織による払沢の 滝整備事業の推進	村の支援を得て本計画の具体化に 向けた検討を進め、できる事業から 住民主導で実施する。	×
	c. 既存の清掃活動の継続実施	トイレの清掃や遊歩道のごみ拾い など、これまで自治会を中心に実施 してきた取組みを継続実施する。自 治会に参加していなくても払沢の 滝周辺の管理に参加できるように、 まちづくり組織が実施主体になる ことも考えられる。	○ 本宿自治会が 清掃を実施
	d. イベントを通じた地域活動の 活性化	まちづくり組織による試行的な取 組みや、地域のPR活動など、地域 の活性化に向けた取組みを夏と冬 のイベントで実施する。	△ 冬まつり実行委 員会として実施
	e. 駐車場の土日有料化による活 動費の調達	ハイシーズンの駐車場の混雑緩和 やまちづくり組織の活動資金を調 達する手段として、駐車場の有料化 を検討する。	×

3. 払沢の滝の利用動向の整理

(1) 入込客数の推移

①西多摩地域入込観光客数調査

「西多摩地域入込観光客数調査」によると、檜原村を訪れる観光客数（全体）は、平成18年357千人、平成24年382千人、平成29年417千人と増加傾向にある。

払沢の滝の利用者数は、平成18年39千人から平成24年64千人と大幅に増え、平成29年は46千人に減少したものの、過去10年間では増加で推移している。また、檜原村を訪れる観光客で払沢の滝に立寄る割合は、約1割となっている。

一方、都民の森の利用者数は過去3回の調査ともに210千人前後と横ばいで推移しており、立寄り率は減少傾向にあるものの、村を訪れる観光客の半数が立寄る観光地となっている。

■入込観光客数

	平成18年	平成24年	平成29年
払沢の滝	39千人 (10.9%)	64千人 (16.7%)	46千人 (11.0%)
都民の森	216千人 (60.5%)	217千人 (56.8%)	208千人 (49.9%)
檜原村全体	357千人 (100%)	382千人 (100%)	417千人 (100%)

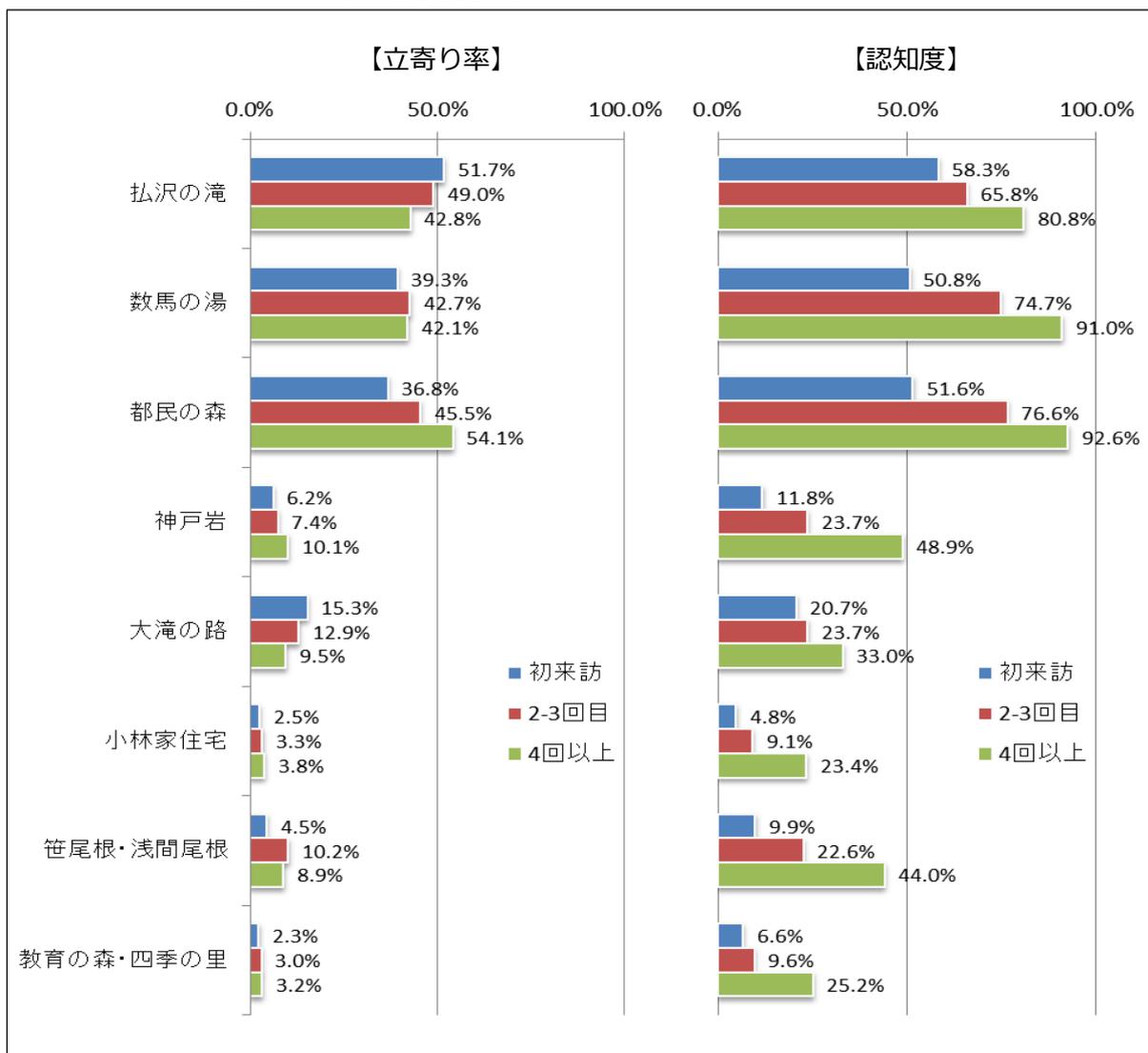
資料：西多摩地域入込観光客数調査報告書

②檜原村観光実態調査（平成 30 年 3 月）

[立寄り率・認知度]

払沢の滝の「立寄り率・認知度」は、数馬の湯や都民の森と並んで高い値を示している。また、来訪経験別に見ると、初来訪および2～3回目の来訪者の立寄り率が高く、初めて檜原村を訪れる観光客の目的地でもあり、繰り返し訪れてもらえる村の代表的な観光資源とも読み取れる。

■観光資源の立寄り率・認知度（来訪経験別）



資料：平成 29 年度檜原村観光実態調査

【他の観光資源への周遊状況】

1回の来訪で複数の観光資源に立寄る割合を見ると、「数馬の湯－都民の森」が19.3%で最も高く、「払沢の滝－数馬の湯」が15.8%、「払沢の滝－都民の森」が14.8%となり、払沢の滝を含む周遊が上位となっている。また、立寄り率が2%に満たない観光資源が多い中で、払沢の滝はどの観光資源からも2%以上の周遊が得られている。東京都内唯一の日本の滝百選という知名度とともに、南北に分かれる分岐点(橘橋)近くに位置していることから、村内でも立寄り先として選ばれやすい観光資源・観光拠点になっていると言える。

■立寄り率

	① 払沢の滝	② 数馬の湯	③ 都民の森	④ 神戸岩	⑤ 大滝の路	⑥ 小林家住宅	⑦ 尾根・浅間 尾根	⑧ 教育の森・四 季の里	⑨ あきる野市
①払沢の滝		15.8%	14.8%	6.4%	4.8%	2.3%	5.3%	2.0%	2.1%
②数馬の湯			19.3%	4.7%	7.0%	2.1%	5.3%	1.6%	0.8%
③都民の森				5.4%	11.6%	1.8%	4.1%	1.8%	1.1%
④神戸岩					1.9%	1.5%	1.8%	0.9%	0.1%
⑤大滝の路						1.1%	1.8%	1.1%	0.1%
⑥小林家住宅							1.0%	0.8%	0.0%
⑦尾根・浅間尾根								1.3%	0.2%
⑧教育の森・四季の里									0.1%
⑨あきる野市									

※ : 20%以上、 : 10%以上、 : 5%以上

資料：平成29年度檜原村観光実態調査

(2) 集客イベントの開催概要

弘沢の滝では、「弘沢の滝ふるさと夏まつり」と「弘沢の滝冬まつり」の2つの集客イベントを実施している。開催概要および集客実績は以下のとおりである。

1) 弘沢の滝ふるさと夏まつり

「弘沢の滝ふるさと夏まつり」は、地域の活性化を目的に実施される村で最も規模の大きいイベントで、例年8月後半の土曜日、日曜日の2日間で開催されている。主催者は、弘沢の滝ふるさと夏まつり実行委員会であり、檜原村観光協会が事務局を担当している。開催内容は、弘沢の滝のライトアップ、ステージプログラム、模擬店、打ち上げ花火という構成になっている。

入場者数は天候により減少することもあるが、例年概ね1万人の集客があり、第30回記念回は12,552人が来場した。

■弘沢の滝ふるさと夏まつり入場者数

回数	入場者数	日程	備考
第22回	7,181人	平成22年8月21(土)、22日(日)	
第23回	6,100人	平成23年8月20(土)、21日(日)	2日間小雨の中決行
第24回	8,605人	平成24年8月18(土)、19日(日)	
第25回	10,034人	平成25年8月17(土)、18日(日)	
第26回	10,596人	平成26年8月23(土)、24日(日)	
第27回	9,070人	平成27年8月22(土)、23日(日)	
第28回	7,963人	平成28年8月20(土)、21日(日)	1日目台風接近の中決行
第29回	9,165人	平成29年8月19(土)、20日(日)	
第30回	12,552人	平成30年8月18(土)、19日(日)	

2) 払沢の滝冬まつり

「払沢の滝冬まつり」は、払沢の滝が結氷することを村外にアピールするため、払沢の滝冬まつり実行委員会が主催し、12月～3月の冬期間開催されている。

開催内容としては、「フォトコンテスト」および最大結氷する日を当てる「氷瀑クイズ」を実施し、期間中に檜原村の物産を販売する「ほっこり市」を1日開催している。冬まつり開催期間中の来場者数は把握していない。

「氷瀑クイズ」の応募者数は、平成22年度計画時は平成14～21年の間で毎年5,000～7,000通の応募があったが、氷瀑クイズを実施しなかった平成23年以降は3,000～4,000通に減少している。

結氷時は、首都圏でのテレビ放映やライブカメラの映像を見て訪れる観光客が多く、武蔵五日市駅発の路線バスも臨時便を出すなど、誘致力は高い。

■払沢の滝冬まつり・氷瀑クイズ実施結果

年度	応募総数	最大結氷率	最大結氷日	備考
22年度	5,975人	85%	平成23年1月31日	
23年度	—	95%	平成24年2月5日	氷瀑クイズなし
24年度	3,087人	55%	平成25年2月25日	
25年度	3,227人	65%	平成26年1月20日	
26年度	3,521人	45%	平成27年1月4日	
27年度	3,704人	70%	平成28年1月27日	
28年度	4,173人	65%	平成29年1月26日	
29年度	3,772人	100%	平成30年1月28日	12年ぶりに完全結氷

(3) 来訪者アンケート調査

弘沢の滝の利用実態を把握するため、来訪者アンケート調査を実施した。アンケート調査は夏と冬の2回行い、季節による利用動向の違いを把握する。また、平成22年度計画の調査結果と比較できる内容については、利用動向の変化を考察する。

1) 調査概要

■調査概要

		夏調査	冬調査
調査日	平日	平成30年8月29日(水)・30日(木)	平成31年2月5日(火)
	休日	平成30年9月2日(土)・9日(日)	平成31年2月3日(日)
調査方法	調査員による対面式調査		
調査場所	弘沢の滝遊歩道入口		
サンプル数	夏冬合計268(夏202、冬66)		

[参考] 平成22年度計画 来訪者アンケート調査概要

調査日	平成22年7月28日(水)～8月20日(金)
調査方法	滝周辺の店舗への留置き調査
サンプル数	208

■アンケート調査票（表面）

調査員記入欄 【 / () 】 【 10 11 12 13 14 15 16 17 】

檜原村・来訪者アンケート調査

～ ようこそ檜原村へ ～

檜原村では、来訪者の皆様にアンケート調査のご協力をお願いしております。よりよい観光地づくりの基礎資料とするため、ぜひ皆様のお声をお聞かせください。

調査主体：檜原村産業環境課 観光商工係
調査実施：まちづくりラボ・サルベージ様

問1 下記①～⑥のご自身のことについて、該当する番号に○印、またはご記入ください。

- ① 性別… 1 女性 2 男性
- ② 年齢… 1 10代 2 20代 3 30代 4 40代 5 50代 6 60代以上
- ③ 交通手段… 1 自家用車 3 貸切バス 5 自転車
2 公共交通機関 4 バイク 6 その他(具体的に〔 〕)
- ④ 檜原村の来訪経験… 1 今回が初めて 2 2～3回目 3 4回以上
- ⑤ 居住地… 1 東京都 2 埼玉県 3 千葉県 4 神奈川県 5 その他()道・府・県
地区名… 具体的に⇒()市・区・町・村
- ⑥ 参考にされた情報はありますか？(あてはまるもの全てに○)
- 1 家族・知人の話 3 新聞・雑誌の記事 5 SNSの投稿 7 その他(具体的に)
- 2 テレビ番組等 4 ポスター・パンフレット 6 ネット情報 ()

問2 今回のお出かけの主な目的は何ですか？(番号1つだけに○)

- 1 登山・ハイキング 4 滝巡り 7 歴史巡り 10 バイク・ツーリング・サイクリング
- 2 数馬の湯 5 川遊び・釣り 8 グルメ巡り 11 その他(具体的に)
- 3 民宿・旅館の宿泊 6 キャンプ・BBQ 9 保養・休息 ()

問3 駐車場やバス停から払沢の滝まで、どのような点を意識して歩きましたか？(該当するもの全てに○)

- 1 所要時間 3 歩きやすさ 5 休憩所等の有無 7 滝以外の魅力的なスポット
- 2 自然景観の美しさ 4 季節の植物の有無 6 トイレの有無 8 その他(具体的に)
- ()

問4 今回の来訪で払沢の滝の周辺にある以下店舗に立寄りましたか？または、このあと立ち寄る予定はありますか？(あてはまる番号1つずつに○)

	問4-1 知っていますか？		問4-2 今回は行きましたか？	
	知っている	知らない	行った・行く	行かない
①木工房 森のささやき	1	2	1	2
②四季の里	1	2	1	2
③ヴィッラ デルビーノ	1	2	1	2
④ギャラリー喫茶 やまびこ	1	2	1	2
⑤ちとせ屋	1	2	1	2
⑥橋本旅館	1	2	1	2
⑦カフェ せせらぎ	1	2	1	2
⑧かあべえ屋(ミニスーパー)	1	2	1	2
⑨たちばな家	1	2	1	2
⑩川端商店(酒店)	1	2	1	2
11 横川交通(タクシー)	1	2	1	2

■アンケート調査票（裏面）

問5 今回のお出かけで、現在地点の他に立ち寄った場所はありますか？(村外含む)

[]

問6 払沢の滝周辺で、「あったらいいな」または「あれば立ち寄ってみたいな」と思うのは、どのような施設ですか？

- | | | |
|-----------------|-------------|-------------|
| 1 4段の滝を眺められる展望台 | 4 天然温泉の足湯 | 7 雰囲気の良いカフェ |
| 2 山野草を観察できる遊歩道 | 5 地元産物の土産品店 | 8 その他(具体的に) |
| 3 沢の水に触れられる広場 | 6 観光案内所 | [] |

問7 今回は、村内にどの程度滞在されますか？(番号1つだけに○)

- 1 2時間以内 2 2～4時間 3 4時間以上(口帰り) 4 宿泊(宿泊先名) []

問8 檜原村に滞在されて、どのような印象を持たれましたか。①～⑦の項目について、それぞれ1つお選びください。(①～⑥のうち食事・土産品の購入等、未体験の項目は評価無記入で構いません)

- | | | | | | | | |
|-------------------|--------|------|--------|------|--------|------|--------|
| ① 交通アクセスの利便性 | 1 大変満足 | 2 満足 | 3 やや満足 | 4 普通 | 5 やや不満 | 6 不満 | 7 大変不満 |
| ② 地図・案内サインの分かりやすさ | 1 大変満足 | 2 満足 | 3 やや満足 | 4 普通 | 5 やや不満 | 6 不満 | 7 大変不満 |
| ③ 景観・雰囲気 | 1 大変満足 | 2 満足 | 3 やや満足 | 4 普通 | 5 やや不満 | 6 不満 | 7 大変不満 |
| ④ 地元住民のもてなし | 1 大変満足 | 2 満足 | 3 やや満足 | 4 普通 | 5 やや不満 | 6 不満 | 7 大変不満 |
| ⑤ 食べ物 | 1 大変満足 | 2 満足 | 3 やや満足 | 4 普通 | 5 やや不満 | 6 不満 | 7 大変不満 |
| ⑥ お土産品 | 1 大変満足 | 2 満足 | 3 やや満足 | 4 普通 | 5 やや不満 | 6 不満 | 7 大変不満 |
| ⑦ 檜原村での滞在の総合評価 | 1 大変満足 | 2 満足 | 3 やや満足 | 4 普通 | 5 やや不満 | 6 不満 | 7 大変不満 |

問9 本調査当日檜原村内において、飲食、買い物、宿泊、バス代等で1人当たりいくらぐらいお遣いになりましたか？(本日この後に檜原村内でお遣いになる予定額も含めて)

1人当たり 円

問10 檜原村に滞在されてみて、良かった点がありましたら、お聞かせ下さい。

[]

問11 檜原村に滞在されてみて、改善すべき点がありましたら、お聞かせ下さい。

[]

問12 その他、檜原村に滞在されて、ご意見・ご感想等ありましたら、ご自由にご記入下さい。

[]

2) 調査結果

来訪者アンケート調査の結果を以下に示す。

①回答者の属性 [問1]

<性別>

回答者の男女比に大きな差は見られないが、男性がやや多い。平日・休日による差はほとんどないが、季節別では冬に男性が約6割とやや多い傾向にあった。

<年齢>

10代を除き、20～60代以上まで偏りなく回答が得られている。冬の平日は60代以上が半数を占める。夏冬ともに20～40代の来訪は平日よりも休日が多い。

<来訪経験>

全体で見ると初来訪が4割であり、2回以上のリピーターは5割を超えている。季節別では、夏は初来訪の比率が高くなり、冬は平日・休日ともに初来訪の比率が下がって4回以上のリピーターが4割を占める。

<居住地>

回答者の半数以上（51.5%）が多摩地域からであり、23区を含めると東京都内からの来訪が7割を占めている。東京都以外では、圏央道の延伸の影響もあってか神奈川県（11.6%）および埼玉県（10.4%）からの来訪が多い。23区からの来訪は、夏冬とも休日は平日の倍以上となっている。

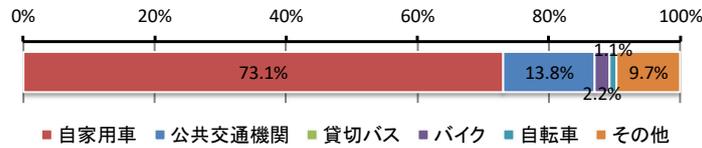
■回答者の属性

		全体	夏調査		冬調査	
			平日	休日	平日	休日
サンプル数		N=268	N=81	N=121	N=29	N=37
性別	女性	44.4%	46.9%	47.1%	34.5%	37.8%
	男性	54.5%	50.6%	52.9%	62.1%	62.2%
年齢	10代	4.1%	6.2%	1.7%	3.4%	8.1%
	20代	15.7%	8.6%	19.0%	13.8%	21.6%
	30代	18.3%	14.8%	23.1%	6.9%	18.9%
	40代	23.1%	19.8%	31.4%	3.4%	18.9%
	50代	15.3%	21.0%	14.0%	13.8%	8.1%
	60代以上	23.1%	29.6%	10.7%	55.2%	24.3%
来訪経験	初来訪	40.7%	44.4%	47.9%	10.3%	32.4%
	2～3回目	23.5%	22.2%	25.6%	27.6%	16.2%
	4回以上	32.1%	33.3%	26.4%	41.4%	40.5%
居住地	東京都（23区）	19.8%	7.4%	28.1%	13.8%	24.3%
	東京都（多摩地域）	51.5%	58.0%	43.0%	51.7%	64.9%
	埼玉県	10.1%	4.9%	12.4%	24.1%	2.7%
	千葉県	3.4%	4.9%	4.1%	0.0%	0.0%
	神奈川県	11.6%	18.5%	9.9%	6.9%	5.4%
	その他の地域	2.6%	3.7%	1.7%	3.4%	2.7%

※この表内に「無回答」の比率は記載していない

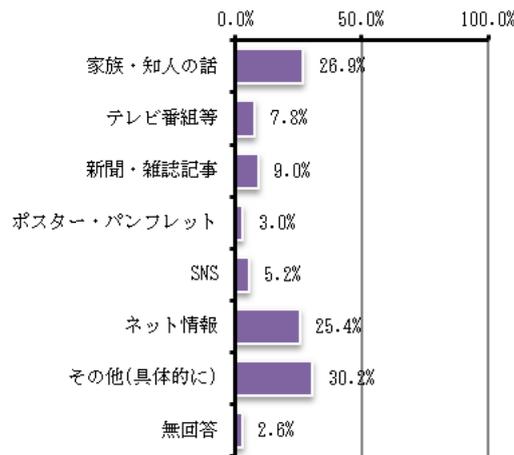
<交通手段>

交通手段は、自家用車の利用が7割を占める。「その他」の回答には、レンタカー、タクシー、カーシェアが含まれ、これらを合わせると約8割が車での来訪となっている。



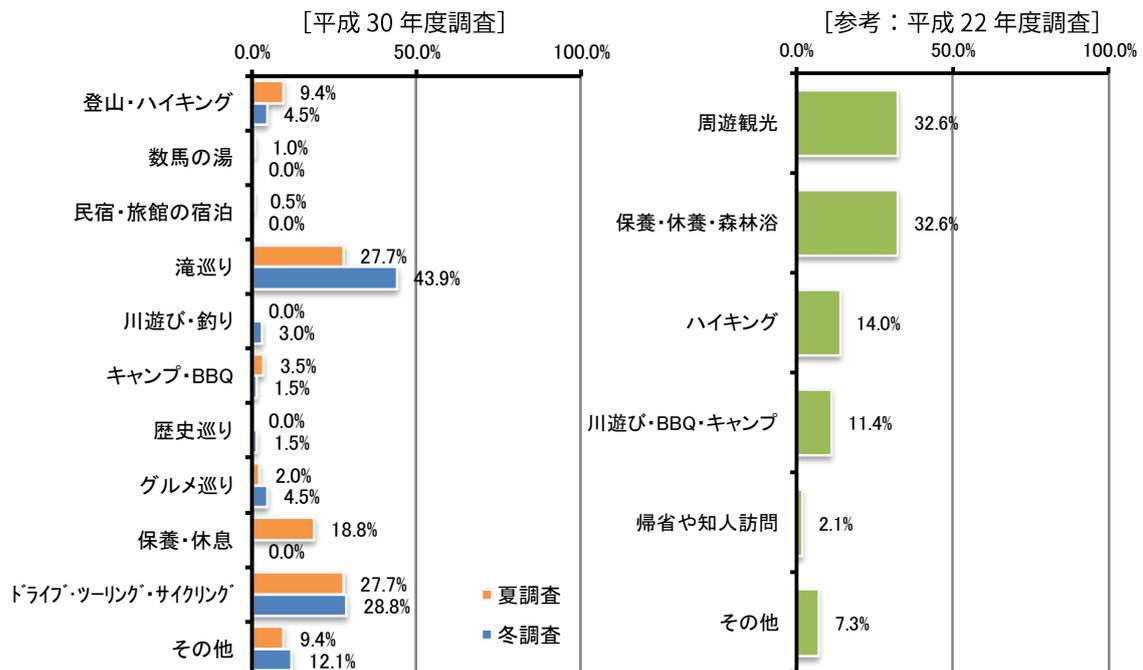
<参考にした情報>

参考にした情報は、「家族・知人の話」と「ネット情報」が3割であった。



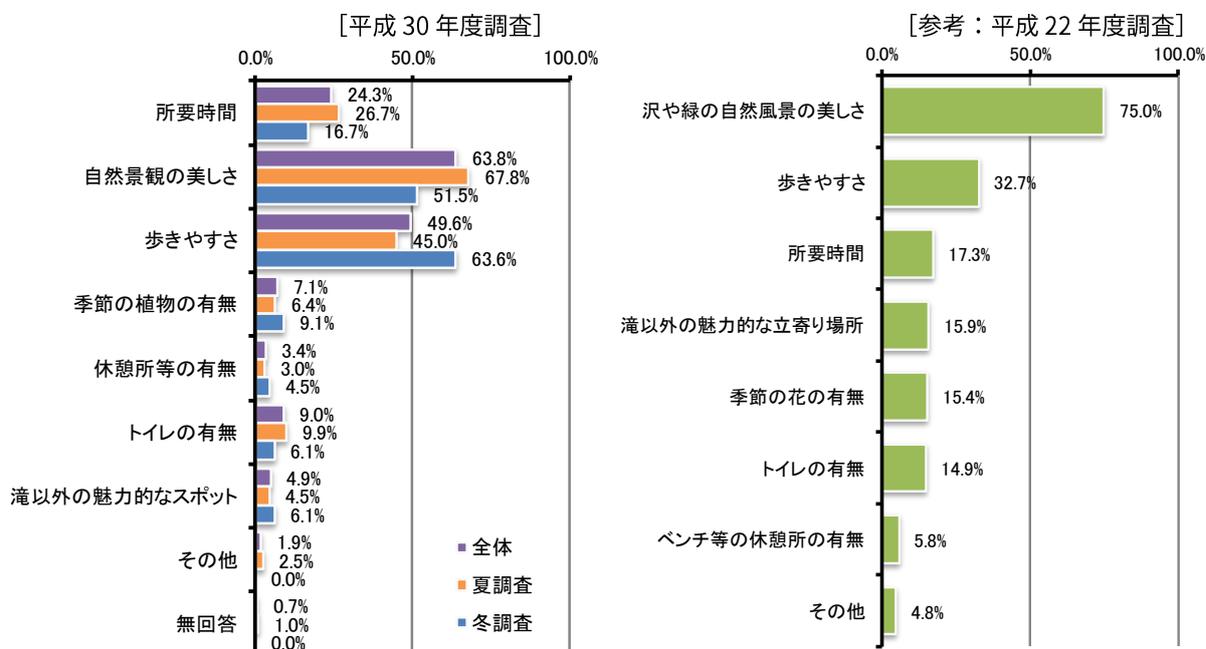
②来訪の目的 [問2]

檜原村への来訪の主な目的は、夏・冬ともに「滝巡り」と「ドライブ・ツーリング・サイクリング」がそれぞれ約3～4割と多く、夏の「保養・休養」や「登山・ハイキング」が続く。平成22年度調査でも「周遊観光」や「保養・休養・森林浴」が上位となっており、豊かな自然環境を求めて檜原村を訪れる人が多い。



③歩行中の意識 [問3]

駐車場またはバス停留所から払沢の滝まで歩きながら意識していることは、上位3つは平成22年度調査と変わらず、「自然景観の美しさ」、「歩きやすさ」、「所要時間」であった。冬調査では「歩きやすさ」の比率が最も高く、特に冬は快適で安全に歩くことができる歩行環境が重要視されていることがわかる。



④立寄り先 [問4、問5]

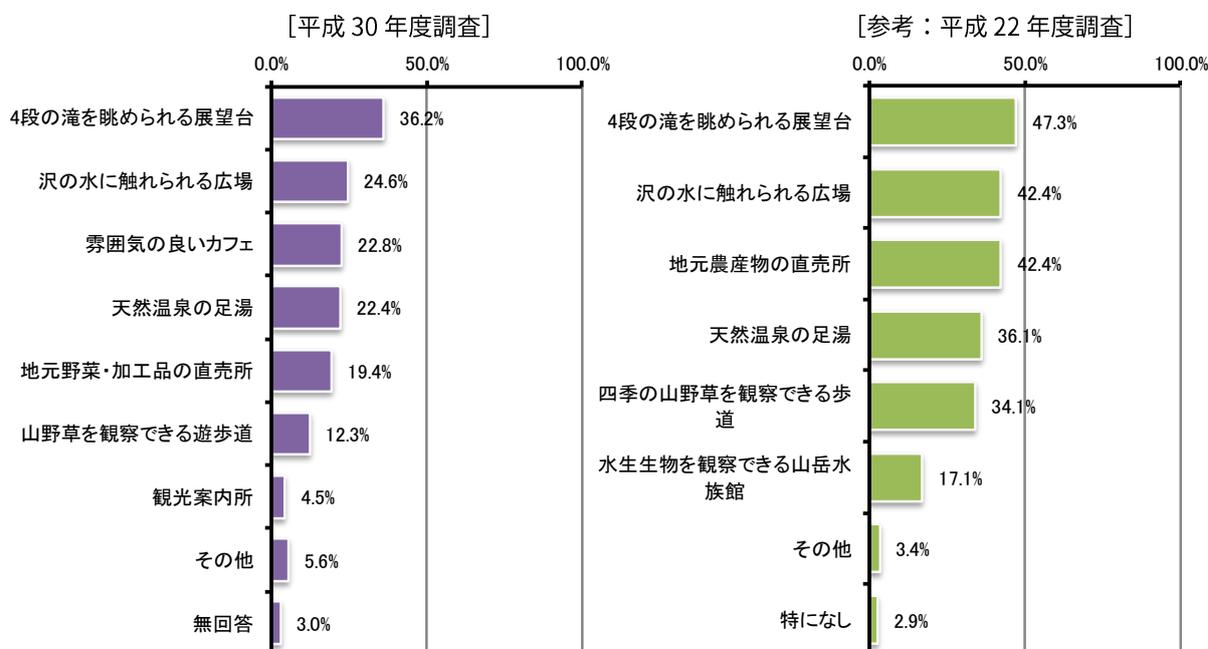
滝周辺施設で立寄りが2割を超えているのは「森のささやき」と「ちとせ屋」であり、飲食施設に関しては知っているも立寄らない観光客が多い結果となった。村外では、温泉施設、鍾乳洞、飲食施設等の立寄りがあった。

	認知度		立寄り	
	知っている	知らない	行った・行く	行かない
①木工房 森のささやき	52.6%	46.3%	26.5%	72.4%
②ギャラリー喫茶 やまびこ	38.4%	60.4%	7.8%	91.0%
③四季の里	28.4%	70.5%	5.2%	93.7%
④ヴィッラ デルピーノ	19.4%	79.5%	3.7%	95.1%
⑤ちとせ屋	39.6%	59.3%	22.4%	76.5%
⑥たちばな屋	21.3%	78.0%	5.2%	94.0%
⑦カフェ セセラぎ	13.8%	85.1%	4.1%	94.8%
⑧かあべえ屋	7.8%	91.0%	1.1%	97.8%
⑨川端商店	3.7%	95.1%	0.0%	98.9%
⑩橋本旅館	4.9%	94.0%	0.7%	98.1%
⑪横川交通	6.7%	92.2%	1.1%	97.8%
その他の立寄り先 (複数回答があった場所)	村内	数馬の湯(8)、都民の森(5)、神戸岩(4)、寺カフェ(2)、深山(2)		
	村外	瀬音の湯(7)、日原鍾乳洞・鍾乳洞(6)、そば屋(3)、奥多摩湖(2)、黒茶屋(4)、バーベキュー場(2)		

※この表内に「無回答」の比率は記載していない

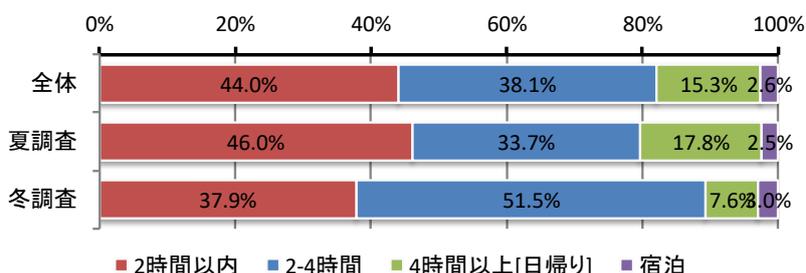
⑤立ち寄ってみたい施設 [問6]

払沢の滝周辺で「あったら良い施設・あれば立寄ってみたい施設」は、「4段の滝を眺められる展望台」(36.2%)、「沢の水に触れられる広場」(24.6%)の比率が高い。平成22年度調査と比べると、複数回答している回答者が少なく、新たな施設整備を求める比率は低い傾向にある。



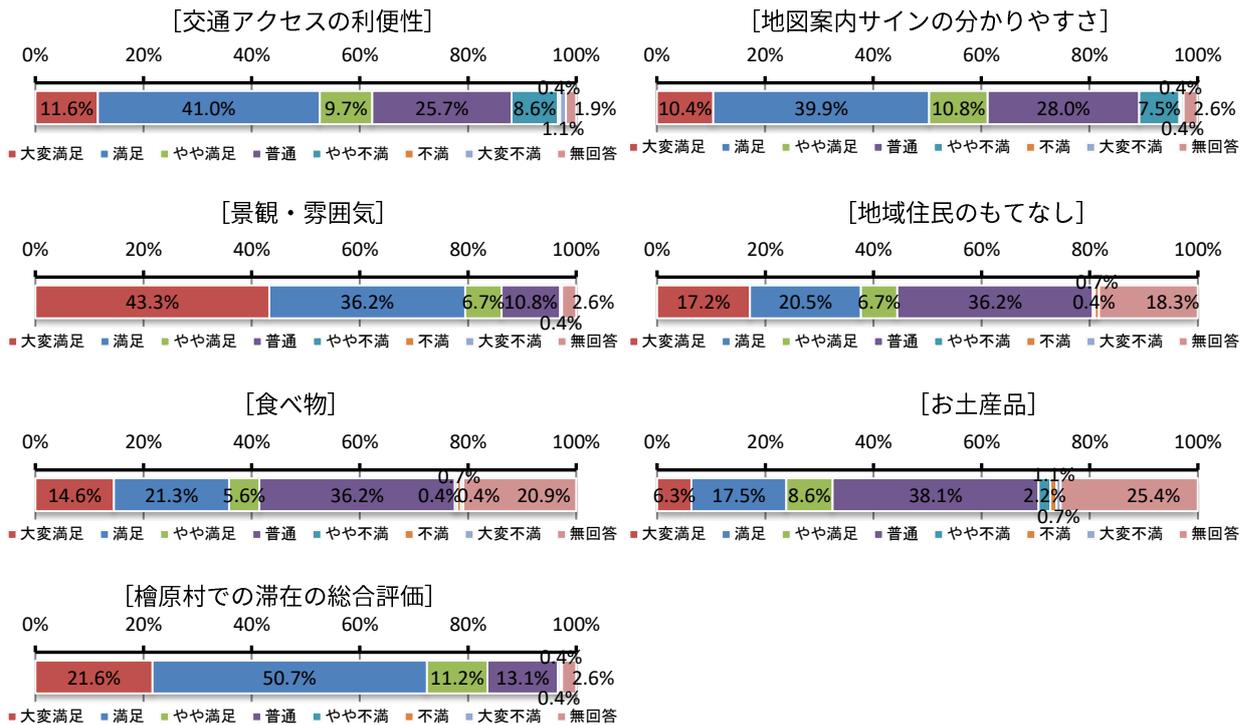
⑥滞在時間 [問7]

滞在時間は、「2時間以内」が約半数であり、「2～4時間」と合わせると4時間未満の滞在が8割を超える。夏は「2時間以内」の比率がさらに高く、村外も含んだ周遊観光の立寄り先として檜原村に訪れていることがうかがえる。宿泊は夏冬ともに3%程度と少ない。



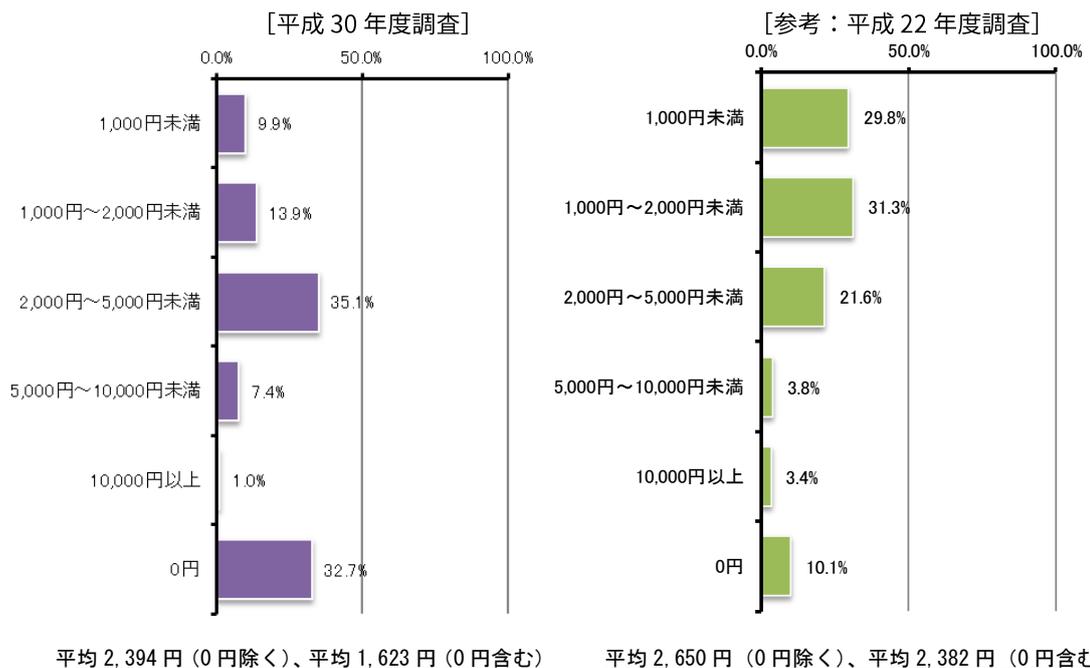
⑦滞在時の印象 [問8]

滞在の総合評価は、「大変満足」、「満足」の回答が7割を超えており、項目別では、「景観・霧囲気」の「大変満足」の比率が高い。一方で、「交通アクセス」、「地図サインの分かりやすさ」では「やや不満」、「不満」の回答もみられ、「地域住民のもてなし」、「食べ物」、「お土産品」については、滞在中に体験しないことから無回答とする回答者も多く、多様な観光体験を提供するという点では課題が見える結果となった。



⑧観光消費額 [問9]

村内での一人当たりの観光消費額は、2,000円～5,000円未満の回答が最も多く、回答者の約3割は村内で消費をしていない。消費した人の平均消費額は2,394円、消費していない人を含むと1,623円であった。平成22年度調査では、消費した人の平均消費額は2,650円、消費していない人を含むと2,382円と、今回よりも高い結果であった。村内での立寄り先が少ないことから、食事や買い物は村外でも行われていることがうかがえる。



⑨檜原村の滞在で良かった点、改善すべき点、その他意見・感想 [問 10～12]

自由回答の内容を整理すると、以下のようになる。

<良かった点>

- ・ 払沢の滝の自然環境や散策道の歩きやすさを評価する回答がみられる。
- ・ 夏でも涼しい滝周辺の過ごしやすさや、冬季の滝の結氷など、滝や森林の豊富な自然環境に好意的な印象を持っている。

<改善すべき点>

- ・ 「遊歩道にもっと柵があるとよい」、「ベンチがあると良い」、「凍結時の雪の処理をきちんとしてほしい」といった安全面に関する要望や、「駐車可能台数が少ない」、「駐車スペースが狭い」など駐車場の改善を求める回答が挙げられている。
- ・ 滝に限らず村内の観光情報やPR不足に対する指摘がある一方で、パンフレット類は「種類が多くてどれを見たら良いのか分からない」という意見もある。
- ・ 村内の立寄り施設としては飲食施設の数、価格、質の向上を望む声や、コンビニがなく不便と感じる声もある。
- ・ 交通アクセスに関しては、バスの増便など公共交通機関の利便性向上や、駐車スペースの確保などが望まれている。

<その他意見・感想>

- ・ 「東京で味わえる自然」、「自然に癒された」、「他の季節にも来たい」という好意的な意見、感想が多かった。また、「不便さも魅力のひとつ」、「よくある観光地のようにはないが欲しくない」、「今ある自然を大切にしてほしい」等、今の状態を維持して欲しいという声も挙げられている。

3) まとめ

①来訪者の客層

- ・ 性別、年齢層に大きな偏りはないが、平日は60代以上が多く、休日は20～40代の来訪者が増える傾向にある。
- ・ 来訪者の居住地は多摩地域が7割を超えており、23区を含めて東京都内から車で訪れている割合が高く、休日になると神奈川県や埼玉県からの来訪者の割合が高まる。バス利用者、自転車・バイク利用者は少ない。

②来訪者の行動特性

- ・ 檜原村には村外を含む周遊観光や保養・休養等を目的に訪れる人が多い。森林や滝などの自然環境を都心から比較的近い場所で味わえることを魅力と感じて訪れている。
- ・ 村への滞在時間は4時間未満が多く、特に夏は2時間未満の短時間の滞在が多い傾向がみられる。

- ・村内での一人当たりの観光消費額は、消費した人の平均消費額は 2,394 円、消費していない人を含むと 1,623 円であった。払沢の滝周辺施設を含む村内観光資源への立寄りは少なく、食事や買い物は村外での支出が多いと推察される。

③払沢の滝の評価・今後への期待

- ・全体評価としての満足度は高く、払沢の滝周辺の自然環境や滝の景観を活かした整備やウッドチップが敷かれた遊歩道の歩きやすさを評価する声が多い。一方で、バス路線を含む交通アクセスの利便性、遊歩道のさらなる安全性・快適性、駐車場不足、観光情報の不足等を指摘する声もあった。
- ・滝周辺整備に関しては、新しく何かを作るよりも、自然景観を活かしつつ現状の環境整備をさらに改善・充実して欲しいという意見が多かった。

4. 現状の課題と整備の方向

(1) 地元関係者ヒアリング

弘沢の滝周辺整備に対する地域住民の意向を把握するため、「弘沢の滝冬まつり実行委員会」、「弘沢の滝周辺商業関係者（飲食・物販・交通事業者）」、「檜原村観光協会」「本宿自治会」に対してヒアリング調査を行った。

1) 弘沢の滝の現状と周辺整備の評価

滝に関わる活動としては、自治会や水道組合による滝周辺の清掃活動や水道の管理、商業関係者を中心とした実行員会でのイベントが実施されている。

平成22年度計画以降は、遊歩道へのウッドチップの敷設や安全柵の整備が進み、景観や安全面での改善が図られた点を評価している。

2) 滝周辺整備の課題と期待

改善すべき点としては、景観に配慮しつつ安全で快適に歩ける歩行環境を整備することや、駐車場やトイレのスペースが不足している点、滞留時間を長くして周辺施設に立寄ってもらえる仕掛けが欲しい、といった指摘や要望があった。

今後の整備に期待することとしては、花木の増し植え等による四季折々の滝の姿を楽しむ雰囲気づくりや、休憩スペースの確保による滞在時間を伸ばす仕掛けづくり、周辺エリアを含めた遊歩道網の充実により、弘沢の滝を拠点として時間とお金を消費できる観光地づくりが望まれている。

■地元関係者ヒアリングの概要

ヒアリング対象	<ul style="list-style-type: none"> ◎払沢の滝冬まつり実行委員会 ◎払沢の滝周辺商業関係者（飲食・物販・交通事業者） ◎檜原村観光協会 ◎本宿自治会
ヒアリング内容	<ol style="list-style-type: none"> 1) 払沢の滝の現状と周辺整備の評価 2) 滝周辺整備の課題と期待すること
滝に関わる活動	<ul style="list-style-type: none"> ◎自治会・水道組合等の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・本宿自治会で週一回、休憩舎、遊歩道、トイレ、駐車場の清掃を実施 ・地元水道組合で月一回、取水堰、タンクの点検清掃を実施 ◎商業関係者の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会形式で「払沢の滝冬まつり」を開催
払沢の滝の現状と周辺整備の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・遊歩道にウッドチップが敷かれて歩きやすくなった ・安全柵が木調に統一されて雰囲気良くなった ・滝につながる遊歩道の入口がわかりにくいので入口だとわかるような修景やサインがあると良い ・自然を活かした今の整備が良いので大がかりな整備はあまり必要ない
滝周辺整備の課題と期待すること	<ul style="list-style-type: none"> ◎既存施設の改修・整備 <ul style="list-style-type: none"> ・遊歩道や滝壺付近の危険個所の改善 ・入口から滝壺までの見所整備（花の増し植え、つりがね淵等） ・入口から滝壺までの見所解説（忠助淵、滝の名前の由来等） ・ウッドチップの固定（定着）化 ・駐車スペース、駐輪スペースの確保 ◎新規施設の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・忠助淵対岸の休憩スペース確保 ・観光案内所の整備もしくは観光案内機能の強化 ・直売所などの買い物ができる場所 ◎周辺エリアを含めた利用促進策 <ul style="list-style-type: none"> ・払沢の滝を拠点に半日過ごせるような遊歩道網の整備（城山コース、ふるさとの森コース、時坂コース、水辺遊歩道、滝巡りとの連携等） ・滝巡りのPR、滝を撮影する視点場の整備 ・歩いて楽しめるマップづくり（本宿地区～払沢の滝） ・払沢の滝オリジナルのお土産開発

(2) 観光客モニターによる評価

弘沢の滝周辺の整備に関する利用者である観光客の評価を把握するため、観光客モニター調査を実施した。モニターには弘沢の滝バス停から駐車場を經由して滝壺まで現地踏査後に「既存施設（整備）」、「遊歩道」、「看板・サイン」について評価してもらい、調査員の聞き取りにより内容を補完した。

1) 弘沢の滝の現状と周辺整備の評価

弘沢の滝の現状の整備については、自然に手を加え過ぎずに滝を楽しめる空間になっている点を評価する声がある。ただし、遊歩道の安全柵、手すり、木橋などは、補修や改修が必要な箇所があることや、使用材質によって安全面や快適性でやや不安や不満を感じる場所があることも指摘された。また、トイレや駐車場については、現状の利用に大きな問題はないものの、より快適な利用のためには、使いやすい規模（広さ、大きさ、数）や設備に更新していくことも必要と考えられる。

2) 周辺商業施設および情報発信に関する評価

周辺商業施設・飲食施設については、村内でも複数の商業施設が集まっているところは少ないため、立寄り先の選択肢がある点が評価された。しかしながら、来訪者アンケートでも周辺施設の認知度および立寄率は高いとは言えないため、どのような店があるか、あるいは個々の店舗の営業情報について情報発信が必要との指摘もあった。

情報発信については、「日本の滝百選」であることや村内で「滝巡り」が楽しめることなど、「滝」を檜原村の魅力資源として強く訴求することが望まれている。また、現状では季節毎の情報発信は少ないため、四季折々の滝の演出とその情報発信や、SNS等を活用した双方向での情報発信、動画ツールを使った魅力的な情報発信などで、滝の魅力を伝えていく必要があるとの意見が得られた。

■観光客モニター調査の概要

ヒアリング対象	属性の異なる5～6人程度の個人客・グループ客（6組8名）
ヒアリング内容	<p>1) 払沢の滝の現状と周辺整備の評価</p> <p>①既存施設（整備）の良い点・改善すべき点</p> <p>②遊歩道の雰囲気・景観、快適性、安全性の評価</p> <p>③看板・サインの良い点・改善すべき点</p> <p>2) 周辺飲食施設・商業施設の評価</p> <p>3) 払沢の滝の魅力を伝えるために必要な情報</p>
払沢の滝の現状と周辺整備の評価	<p>①既存施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人工物が少なく、整備されすぎていないところが良い ・水場や滝壺周辺は自然を活かした整備にしているところが良い ・トイレの快適性、清潔感が向上すると良い ・便器、扉や把手の老朽化が目立つ ・駐車場可能台数が少ない、駐車区画が狭い <p>②遊歩道</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊歩道はウッドチップが敷かれていて歩きやすい ・安全柵や手すりは補修、改修が必要なところがある ・遊歩道上にある木橋は濡れるとすべりやすい ・手すりや鎖が金属製なので冬場は冷たくて掴めない（掴みたくない） ・人工林の景観がやや単調、木や植物を手入れしたり所々で川面を見せるなど、滝壺に到達するまでにもう少し景色の変化があると良い <p>③看板・サイン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車の誘導看板が的確な場所に見えやすい状態で設置されているとアクセスしやすい ・村の総合案内看板は常に新しい情報に更新されていると良い ・汚れたり破損している看板を外して、忠助淵や水場など見所の説明や現在位置や滝までの距離がわかるような看板があると良い
周辺飲食施設・商業施設の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の飲食施設、商業施設があるので選べる楽しみがあって良い ・店舗の営業情報（営業日、開店時間等）がわかりやすいと良い ・払沢の滝周辺にどのような店舗があるか案内サインがあると良い
払沢の滝の魅力を伝えるために必要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ・「日本の滝百選」をもっとアピールした方が良い ・払沢の滝や他の滝への行き方や楽しみ方がわかるパンフレット ・季節による鳥や植物の移り変わりなど、年に何度も来てみたくなるような季節の見所情報 ・SNSにアップしたくなるような写真コンテストのような仕組み ・ドローン、アクションカメラなどによる臨場感のある動画

(3) 課題の整理と整備の方向

1) 払沢の滝周辺整備に関わる課題

平成 22 年度計画における滝周辺整備の実施状況を踏まえつつ、払沢の滝の利用状況、関係者ヒアリングおよび観光客アンケート等の結果から、払沢の滝周辺整備の課題を以下に整理する。

課題 1 滝を含む渓谷全体の景観魅力の向上

滝だけでなく滝に至るまでの遊歩道や人工林を含め、渓谷全体としての自然の美しさを期待されていることから、滝入口部分から滝壺までのエリアは、国立公園・日本の滝百選として相応しい景観的な魅力を維持・向上させていくことが重要である。

平成 22 年度計画から進められているウッドチップや安全柵による歩行環境の改善を継続するとともに、季節の花木等により四季折々に滝を演出することで、一年を通して集客が図れる整備を行う必要がある。

課題 2 来訪者のニーズに応じた受入環境の整備

来訪者を受入れるために必要な駐車場やトイレ、遊歩道、休憩所、案内サイン等は、滝周辺の自然環境の保全に配慮しながら、周遊観光、保養・休養・森林浴、ハイキングといった目的や交通手段が異なる来訪者のニーズに応じて、施設の新設・更新・撤去等により最適化を図ることが求められる。

課題 3 払沢の滝を拠点とした滞在魅力の向上

村内外からの立寄りが多く、複数の商業・飲食施設が集積しているという立地特性を活かして、払沢の滝周辺を拠点とした「滝巡り」、「花巡り」、「パワースポット巡り」等の周遊観光を促進し、村内における滞在時間・観光消費の増大を図ることが求められる。

課題 4 観光案内機能・情報発信の強化

払沢の滝の四季折々の魅力を周知し年間を通じた誘客を図るとともに村内での周遊観光を促進するためには、観光案内機能および情報発信の強化が不可欠である。払沢の滝周辺および村内の観光情報を得られる場所として、四季の里に隣接する観光案内所を活用し、村内の観光情報やエコツーリズム情報の発信を行うとともに、周辺商業施設と連携した情報発信を強化する。

課題 5 払沢の滝を支える人材の確保と地域活動の支援

平成 22 年度計画以降、払沢の滝冬まつり実行委員会が組織され、若手を含めた地域活動が行われている。一方で、自治会や水道組合による清掃活動や水道管理については、本宿地区の人口減少と高齢化が進んでおり、将来にわたって滝周辺の環境を維持していくための人材を確保することが急務となっている。地域住民が主体となり地域性豊かな活動が展開されるように、行政や観光協会等が支援する必要がある。

2) 周辺整備の方向性

周辺整備の課題を解決するとともに、魅力的な観光地づくりを推進するため、弘沢の滝周辺整備の方向を以下のように設定する。

整備方向1 国立公園・日本の滝百選に相応しい景観・視点場づくり

- ・弘沢の滝が印象的に見える遊歩道入口から滝壺までの景観整備
- ・回遊が楽しめる遊歩道ルートの設定
- ・ゆったりとした時間を過ごせる癒しの環境づくり
- ・自然の豊かさと四季折々の美しさを実感できる渓谷の植栽管理

整備方向2 ユニバーサルデザインによる受入環境整備

- ・景観への配慮とともに安全性と利便性を備えたユニバーサルデザインによる受入環境整備
- ・誰でも分かりやすい案内・誘導・解説サインの整備
- ・誰でも使いやすい駐車場、駐輪場の整備

整備方向3 周遊観光ルート開発と滞在の魅力づくり

- ・既存道を活用した遊歩道の環境整備
- ・弘沢の滝を拠点とした周遊観光ルート開発
- ・本宿・上元郷・下元郷地区の店舗や滝を巡るマップ作成および土産品開発の支援

整備方向4 観光情報コンテンツの作成と情報発信

- ・四季の里に隣接する観光案内所の機能強化
- ・観光案内サインの拡充
- ・弘沢の滝および周辺地域の魅力を伝える情報コンテンツづくり
- ・周遊観光、エコツーリズム関連の情報発信

整備方向5 本宿のまちづくりを推進する組織の活動支援

- ・弘沢の滝周辺で開催されるイベントの活動支援
- ・清掃および環境美化活動の後方支援

5. 払沢の滝周辺整備計画

(1) 施設整備計画

1) 施設整備の内容

5つの整備の方向性に沿って、平成22年度計画の取組内容を見直すとともに、今後取組むべき施設整備の内容を以下に整理する。

■本改定計画における施設整備の内容

整備の方向	整備の内容		
①景観・視点場づくり	視点場整備	a.右岸側遊歩道と木橋の新規整備	既存遊歩道の対岸を回遊できるルートづくり
	癒しの環境	b.忠助淵付近の休憩デッキの整備	既存遊歩道の対岸で休憩できるスペースづくり
		c.遊歩道入口から森のささやきまでの花の増し植え【新規】	滝へのゲートとなる入口付近の修景
		d.遊歩道沿道の落葉広葉樹の植栽および人工林の整備【新規】	日本の滝百選にふさわしい景観づくり、秋の集客増
②ユニバーサルデザイン	受入環境(安全性・快適性)	a.遊歩道における安全柵等の更新	安全柵の補修・改修による安全性の向上
		b.急傾斜部(滝壺付近)における手すりの設置	手すりの設置による安全性の向上
		c.既存遊歩道のウッドチップ舗装	ウッドチップの固定化による安全性と景観の向上
	サイン	d.既存サインの更新または撤去	既存サインの更新・撤去による適切な情報伝達
		e.檜原街道から払沢の滝駐車場までの車両系サインの整備	日本の滝百選の認知度向上と立寄りの集客増
		f.橋橋から払沢の滝までの歩行系サインの増設	歩行系サインの充実
		g.滝と渓谷を紹介する案内・解説サインの整備	案内・解説サインの充実
	駐車場	h.駐車場の拡張整備	利便性、快適性の向上、計画通りの実施を東京都に要請
		i.自転車ラックの整備【新規】	サイクリスト増加への対応
		j.駐車場用地の確保【新規】	駐車スペース確保への対応
トイレ	k.払沢の滝バス停トイレの改善【新規】	快適性の向上	
	l.払沢の滝駐車場トイレの改善【新規】	快適性の向上、東京都への要請	

③周遊ルートと滞在の魅力	環境整備	a.ウォーキングルート上の誘導サインの整備	ウォーキングルートの共通サイン
		b.ウォーキングルート上の休憩施設の整備	ウォーキングルートの快適性向上
		c.吉祥寺、檜原城址を結ぶ遊歩道の整備 [新規]	遊歩道の補修・環境整備
		d.浅間橋とやすらぎの里を結ぶ水辺の遊歩道の整備 [新規]	遊歩道の補修・環境整備
④観光情報コンテンツと情報発信	観光案内	a.観光案内機能の強化	観光案内所の機能強化
		b.周辺観光資源を含めた案内サインの更新 [新規]	村内サイン計画の統一

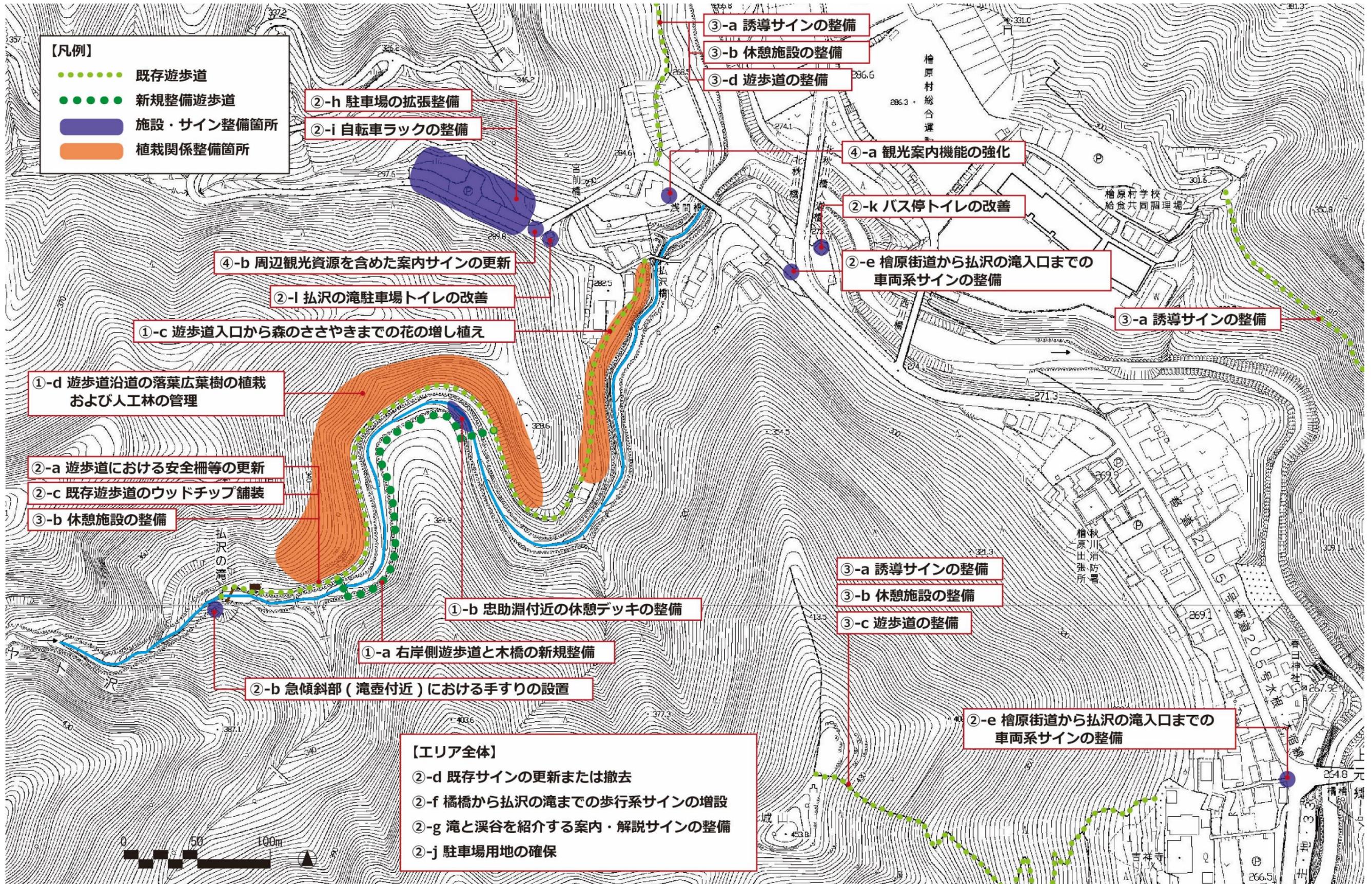
■平成 22 年度計画から削除する整備内容とその理由

整備方向 (平成 22 年度計画の項目名)	整備の内容	廃止の理由
①景観・視点場づくり	・滝壺付近の観瀑台の整備	大がかりな視点場整備よりも環境保全を望む意見が多いため
	・休憩舎裏斜面の観瀑台の整備	大がかりな視点場整備よりも環境保全を望む意見が多いため
	・滝壺付近の階段護岸の整備	大がかりな視点場整備よりも環境保全を望む意見が多いため
	・滝壺付近の休憩舎の整備	実施済み
②ユニバーサルデザイン	・滝入口付近の駐車場の新規整備	払沢の滝駐車場の拡張(②-h)に統一
	・払沢園裏の身障者用駐車場の整備	払沢の滝駐車場の拡張(②-h)に統一
③歩行ネットワーク	・ふるさとの森と上元郷を結ぶ遊歩道の整備	実施済み
④周遊観光ルート・情報発信拠点	・滝壺周辺から時坂峠に抜ける歩道の整備	大がかりな視点場整備よりも環境保全を望む意見が多いため

2) 施設配置計画

平成 22 年度計画の見直しにより、払沢の滝への来訪者評価を高め、来訪者の増加および地域の活性化に向けて最も効果が期待できる施設配置計画として、次頁に示す。

■施設配置計画図



3) 個別施設の整備計画

5つの整備方向に基づいた、4項目22の取組みについて、以下に整理する。

① 景観・視点場づくり

①-a. 右岸側遊歩道と木橋の新規整備

【整備のねらい】

- ・ 渓谷の自然美を眺めながら期待感を高めてアプローチでき、行きと帰りで異なる道を選択できる回遊路を検討する。
- ・ 2つのルートを確認することで、災害時への対応が容易になる他、イベント等の混雑時の一方通行化など、安全面での効果も期待できる。

【整備内容】

- ・ 橋の場所は、渓谷の眺めが美しく、川幅が狭い忠助淵付近が適切と考えられる。平成22年度計画に引き続き、地権者への働きかけと調整を図る。
- ・ 橋は周囲の環境に馴染むデザインを採用し、遊歩道は既存遊歩道と同様に歩きやすさに配慮して整備する。

①-b. 忠助淵付近の休憩デッキの整備

【整備のねらい】

- ・ 払沢の滝以外の渓谷の見所の一つとして、忠助淵を眺めながら休憩できるデッキを検討する。来訪者がゆっくりと時間を過ごせるような空間を作ることで、来訪者の滞在時間の拡大を図る。

【整備内容】

- ・ 既存の遊歩道から新規整備の橋を渡った場所に、渓谷に張り出して忠助淵を覗き込めるように整備する。
- ・ 施設構成は、木製デッキとロープによる転落防止柵、木製ベンチとする。

①-c. 遊歩道入口から森のささやきまでの花の増し植え

【整備のねらい】

- ・ 遊歩道入口から森のささやきまでを払沢の滝への入口（ゲート）および導入部にふさわしい景観に整えるため、花の増し植えをする。

【整備内容】

- ・ 管理が比較的容易で季節感を演出できる花木として、ヤマブキ（開花時期：4月）、アジサイ（同：6月）、フヨウ（同：9月）、サザンカ（同：11月）などを植栽する。

①-d. 遊歩道沿道の落葉広葉樹の植栽および人工林の整備

【整備のねらい】

- ・ 遊歩道沿道は人工林の景観が長く続くため、歩きながら景観の変化を楽しんでもらえるよう山側斜面にアイスポットとなる落葉広葉樹を植栽する。
- ・ 植栽に合わせて間伐等により人工林を手入れする。

【整備内容】

- ・人工林の中に、単木としてヤマモミジ等の落葉広葉樹を 100 本程度植栽する。
- ・周囲の針葉樹景観から夏は青葉、秋は紅葉が浮き立つようにする。
- ・植栽に合わせて、人工林 1 ha、1,000 本程度を伐採する。

②－ a. 遊歩道における安全柵等の更新

【整備のねらい】

- ・平成 22 年度計画により全面的に木調の安全柵に改修されているため大がかりな整備は必要ないが、老朽化が進み改修が必要な柵を更新し安全性を確保するとともに、景観面での改善を図る。

【整備内容】

- ・喫茶やまびこ前の安全柵を改修する。
- ・遊歩道の安全柵の損傷を確認し、傷んだ部分を補修・改修する。

②－ b. 急傾斜部（滝壺付近）における手すりの設置

【整備のねらい】

- ・滝壺付近の急傾斜部分に手すりを設置し、子供や体力のない高齢者等が安全に滝壺まで行けるようにする。

【整備内容】

- ・滝壺付近の急傾斜部分には鎖が設置してあるが、より安全に滝壺に到達できるよう、手すりを設置する。
- ・手すりの色や材質は、岩肌や樹木など周囲の景観と調和するものを採用する。金属製の手すりは冬場に冷たくなり掴みにくくなると想定されるため、材質も利用者視点で検討する。
- ・滝壺側ではなく斜面側に設置することで、滝壺の景観を損なわないように配慮する。

②－ c. 既存遊歩道のウッドチップ舗装

【整備のねらい】

- ・平成 22 年度計画時に砂利敷きだった遊歩道にウッドチップを敷設したことにより、自然景観との調和と歩きやすさの向上が図れ、来訪者からも高評価を得ている。ただし、ウッドチップが大雨、台風、強風等により渓谷側に流されることが多いため、メンテナンスがしやすいウッドチップ舗装に改修する。

【整備内容】

- ・ウッドチップを固定したウッドチップ舗装を行う。(平成 30 年度に一部整備し、検証して段階的に整備する。)

②－ d. 既存サインの更新または撤去

【整備のねらい】

- ・様々な主体によって注意看板や案内看板が設置され、管理の状況が悪く機能してい

ないサインも見られるため、不要なものは撤去し、来訪者の視点に立ってわかりやすく景観に配慮したサインに更新する。

【整備内容】

- ・駐車場のトイレ前と滝壺付近の右岸園地に設置されているサインを中心に、文字が読めないサインや老朽化が激しいサインは撤去する。更新が必要なサインは、デザインの統一化やサインの集約化を図る。
- ・更新するサインは、新規整備するサインと合わせて、豊かな自然景観を求めて来訪する観光客に違和感を覚えさせず、日本の滝百選でもある滝の景観に調和したデザイン・色調とする。

②－ e. 檜原街道から払沢の滝駐車場までの車両系サインの整備

【整備のねらい】

- ・檜原街道を走行中の車両から払沢の滝の方向を視認できるように、誘導サインを設置し、目的客の利用向上と周遊観光客の立寄りの増加を図る。

【整備内容】

- ・奥多摩方面と武蔵五日市方面のどちらからもわかるように、橘橋交差点の手前から橘橋交差点、バス停交差点、浅間橋手前交差点に誘導サインを設置する。
- ・誘導サインは、車両から認識しやすい青と白の2色を使用して「日本の滝百選 払沢の滝」のテキストと滝のピクトグラムで表現する。
- ・見落とししやすいバス停付近には、「払沢の滝・浅間尾根入口」といったゲートサインを設置する。

②－ f. 橘橋から払沢の滝までの歩行系サインの増設

【整備のねらい】

- ・本宿地区や上元郷地区のバス停や店舗から払沢の滝の入口まで、迷うことなく歩くことができるように、払沢の滝までのわかりやすさや立寄りやすさを改善する。

【整備内容】

- ・本宿地区の橘橋から払沢の滝までの誘導サインを充実させる。既に都道沿いに村による誘導サインの整備が行われているため、同じデザインを採用して、払沢の滝バス停から払沢の滝入口までを整備する。

②－ g. 滝と渓谷を紹介する案内・解説サインの整備

【整備のねらい】

- ・払沢の滝の来訪者ニーズに対応した案内・解説を行うことで、来訪者の満足度を高め、来訪者数の増加を目指す。

【整備内容】

- ・遊歩道の入口には、滝壺までの距離や高低差などの情報、払沢の滝周辺の飲食・商業施設の配置、滝からのウォーキングルートなど、払沢の滝を起点に時間を過ごせる観光情報が得られる案内サインを設置する。

- ・遊歩道上には、滝と渓谷を楽しむ景観スポット、花や紅葉の見所、払沢の滝や忠助淵、水場付近の石碑の解説サインを設置する。
- ・案内・解説サインには英語を併記し、外国人観光客にも的確に情報が伝わるようにする。
- ・サインのデザインは、豊かな自然景観を求めて来訪する観光客に違和感を覚えさせず、日本の滝百選でもある滝の景観に調和したデザイン・色調とする。

②－h. 駐車場の拡張整備

【整備のねらい】

- ・駐車場の収容力を高めることで、混雑の解消による利便性の向上と、来訪者数の増加が期待できる。
- ・ハイカーやサイクリストが払沢の滝駐車場に車を停めて一日過ごすことも多いため、払沢の滝を目的に訪れる観光客が優先的に利用できるような対策も検討する。

【整備内容】

- ・一台当たりの区画が狭いため、駐車場の拡張とともに駐車区画の見直し（拡幅）を行う。区画の見直しに合わせて身障者用の駐車スペースも確保する。
- ・計画通りに拡張整備が行われるよう、東京都に働きかけを続けていく。

②－i. 自転車ラックの整備

【整備のねらい】

- ・檜原村に自転車で訪れる観光客が増えていることから、払沢の滝駐車場付近に駐輪スペースを確保する。

【整備内容】

- ・払沢の滝駐車場付近に常設自転車ラックを設置する。

②－j. 駐車場用地の確保

【整備のねらい】

- ・自家用車の来訪者が、周辺の店舗を巡りながら払沢の滝までの遊歩道を往復しやすいように、払沢の滝バス停付近に駐車場用地を確保する。

【整備内容】

- ・払沢の滝駐車場周辺で駐車場として活用できる空き家や空き地を探し、地権者への働きかけと調整を図る。

②－k. 払沢の滝バス停トイレの改善

【整備のねらい】

- ・トイレの清潔さや快適性は観光地の印象を大きく左右するため、マイナスイメージを与えないように快適性の向上を図る。

【整備内容】

- ・利用者が快適に使えるように、トイレトペーパーの補充や清掃をこまめにする。

また、ベビーチェアやベンチを設置して利便性の向上を図る。

- ・冬期は便器の凍結により故障する事もあるため、暖房便座の設置を検討する。
- ・トイレの老朽化が進んだ場合は、建替えも検討する。その場合は、高齢者、小さな子供連れ、外国人観光客、障がい者など、誰でもが使いやすいユニバーサルデザインのトイレとする。

②- 1. 払沢の滝駐車場トイレの改善

【整備のねらい】

- ・トイレの清潔さや快適性は観光地の印象を大きく左右するため、マイナスイメージを与えないように快適性の向上を図る。

【整備内容】

- ・利用者が快適に使えるように、清掃やトイレトーパーの補充をこまめに行う。
- ・冬期は便器の凍結により故障する事もあるため、暖房便座の設置を都に要望する。

③- a. ウォーキングルート上の誘導サインの整備

【整備のねらい】

- ・払沢の滝を拠点として、本宿、上元郷、下元郷地区を散策する来訪者を増やし、村内での滞留時間の増加をルート上の店舗への立寄りと消費を促進する。
- ・払沢の滝を含むテーマルートを設定し、檜原村のウォーキングの魅力を村外にアピールしていく。

【整備内容】

- ・吉祥寺滝と中山の滝を結ぶ「滝巡り」や桜等の「花巡り」、檜原城址、石仏等の「歴史巡り」などのテーマルートを設定し、歩行者を誘導するためのサインを主要な交差点に設置する。

③- b. ウォーキングルート上の休憩施設の整備

【整備のねらい】

- ・主要な利用者層である登山客や身近な自然に癒しを求めている都市住民を積極的に誘致するため、払沢の滝遊歩道を含むウォーキングルート上に、ベンチを設置し、休憩場所を設ける。
- ・単に足を休めるための施設ではなく良好な視点場として整備することで、自然景観をゆっくりと楽しむようにする。

【整備内容】

- ・ウォーキングルート上の景色の良い場所を中心に、木製のベンチを設置する。

③- c. 吉祥寺、檜原城址を結ぶ遊歩道の整備

【整備のねらい】

- ・吉祥寺と檜原城址を結ぶ遊歩道の補修および環境改善を図ることで、払沢の滝を訪れる観光客の時間の過ごし方の選択肢を増やす。払沢の滝周辺での滞在時間が長く

なることで周辺商業施設の立寄りや消費の増加を促す。

【整備内容】

- ・ 吉祥寺と檜原城址を結ぶ遊歩道を周囲の景観および歩きやすさに配慮して補修する。

③－ d. 浅間橋とやすらぎの里を結ぶ水辺の遊歩道の整備

【整備のねらい】

- ・ 払沢の滝を起点もしくは終点とするウォーキングルートを整備することで、払沢の滝を訪れる観光客の時間の過ごし方の選択肢を増やす。払沢の滝周辺での滞在時間が長くなることで周辺商業施設の立寄りや消費の増加を促す。
- ・ 檜原村には水辺の遊歩道が少ないため、水を間近に感じられる新たな魅力資源とする。

【整備内容】

- ・ 浅間橋とやすらぎの里を川沿いに結ぶ遊歩道を周囲の景観および歩きやすさに配慮して補修する。

④－ a. 観光案内機能の強化

【整備のねらい】

- ・ 払沢の滝および村内の観光資源について来訪者に充実した情報提供ができるように、四季の里に隣接する観光案内所（檜原村エコツアーリズムインフォメーションセンター）を活用して、観光案内の充実、情報発信の強化を図る。

【整備内容】

- ・ 道路に面した場所にインフォメーションサインを掲示して、観光案内機能を有していることの認知度を上げる。
- ・ 段階的には、ドローンやアクションカメラで動画の情報コンテンツを作成して、払沢の滝の季節別の魅力や臨場感のある情報発信を行う。

④－ b. 周辺観光資源を含めた案内サインの更新

【整備のねらい】

- ・ 払沢の滝から村内の観光資源や商業施設等への周遊観光を促進するため、払沢の滝駐車場に設置する案内サインは新しい情報に更新する。

【整備内容】

- ・ 払沢の滝周辺および滝壺までの施設配置等を示す案内サインを設置する。
- ・ 払沢の滝駐車場に設置している総合案内看板は定期的に情報を更新する。

4) 施設整備の概算事業費

施設整備にかかる事業費を試算すると、合計で1億7,466万2千円となる。

■施設整備の概算事業費

整備項目	算定方法 (単価：消費税10%込み)	概算事業費 (千円)
①景観・視点場づくり		
a. 右岸側遊歩道と木橋の新規整備	・ 整地費 160m×2m×19 千円/m ² ・ ウッドチップ舗装 160m×66 千円/m ・ 木橋 30m×770 千円/m	6,080 10,560 23,100
b. 忠助淵付近の休憩デッキの整備	・ 敷地造成 50 m ² ×19 千円/m ² ・ 木製デッキ 20 m ² ×220 千円/m	950 4,400
c. 遊歩道入口から森のささやきまでの花の増し植え	・ 低木 4 種×15 本×11 千円/本	660
d. 遊歩道沿道への落葉広葉樹の植栽および人工林の整備	・ 中高木 2 種×50 本×44 千円/本 ・ 人工林の伐採 1,000 本×3 千円/本	4,400 3,000
②ユニバーサルデザイン		
a. 遊歩道における安全柵等の更新	・ 擬木柵 560m×35 千円/m ・ 木製柵 560m×27 千円/m	19,600 15,120
b. 急傾斜部(滝壺付近)における手すりの設置	・ 手すり 10m×99 千円/m	990
c. 既存遊歩道のウッドチップ舗装	・ ウッドチップ舗装 430m×66 千円/m	28,380
d. 既存サインの更新または撤去	・ 注意看板 10 基×147 千円/基	1,470
e. 檜原街道から払沢の滝駐車場までの車両系サインの整備	・ 誘導サイン(車両) 2 基×220 千円/基	440
f. 橋橋から払沢の滝までの歩行系サインの増設	・ 誘導サイン(歩行) 5 基×131 千円/基	655
g. 滝と渓谷を紹介する案内・解説サインの整備	・ 案内サイン 2 基×1,330 千円/基 ・ 解説サイン 4 基×527 千円/基	2,660 2,108
h. 駐車場の拡張整備	(東京都による整備)	—
i. 自転車ラックの整備	・ 自転車ラック 4 基×31 千円/基	124
j. 駐車場用地の確保	(用地の選定)	—
k. 払沢の滝バス停トイレの改善	・ ベンチ 2 基×136 千円/基 ・ ベビーチェア 2 個×126 千円/個 ・ 暖房便座 3 基×242 千円/基 ・ 建替え(解体費込) 32 m ² ×337 千円/m ²	272 252 726 10,784
l. 払沢の滝駐車場トイレの改善	(東京都による整備)	—
③遊歩道		
a. ウォーキングルート上の誘導サインの整備	・ 誘導サイン(歩行) 30 基×131 千円/基	3,930
b. ウォーキングルート上の休憩施設の整備	・ ベンチ 15 基×136 千円/基	2,040
c. 吉祥寺、檜原城址を結ぶ遊歩道の整備	・ 補修費 300m×2m×19 千円/m	11,400
d. 浅間橋とやすらぎの里を結ぶ水辺の遊歩道の整備	・ 補修費 500m×2m×19 千円/m	19,000
④周辺観光ルート・情報発信拠点		
a. 四季の里における観光案内機能の強化	・ 案内サイン 1 基×1,330 千円/基	1,330
b. 周辺観光資源を含めた案内サインの更新	・ 総合案内看板の更新 1 基×231 千円/基	231
合 計		174,662

(2) 利用促進計画

施設整備計画を補完する取組として、今後取組むべき利用促進計画の内容を以下に整理する。

■本改定計画における利用促進計画の内容

項目	取組み内容	
1) 歩行ネットワークの利用促進	・小中学校の桜との連携	エコツーリズム事業と連携してエコツアーを実施する 食や土産品開発による魅力づくりや滞在時間の拡大に取組む
	・ふるさとの森との連携	
	・店舗の位置や特徴を示したマップづくり	
	・払沢の滝来訪者の志向に合った商店・商品の開発	
	・店舗のミュージアム化	
2) 観光周遊を促進する取組み	・払沢の滝発・周遊観光ルートの情報発信	エコツーリズム事業と連携して実施する
	・各店舗における観光案内の推進	周辺店舗との情報共有およびマップ作成の支援
3) 払沢の滝周辺整備を推進する取組み	・まちづくり組織による払沢の滝整備事業の推進	払沢の滝冬まつり実行委員会の活動支援
	・イベントを通じた地域活動の活性化	
	・既存の清掃活動の継続実施	本宿地区の活動支援

■平成 22 年度計画から削除する項目とその理由

項目 (文頭の数字は平成 22 年度計画の項目名)	廃止の理由	
1) 景観・視点場の魅力を高める取組み	・人工林の管理	整備計画①-d に移行
	・自生種の花の増し植え	整備計画①-c に移行
	・遊歩道沿道の落葉広葉樹の植栽	整備計画①-d に移行
2) 歩行ネットワークの利用促進	・都道沿道の花の植栽	沿道の空き地の確保が困難なため削除
	・浅間尾根ハイキングルートの情報発信	実施済み
3) 観光周遊を促進する取組み	・四季の里における観光案内機能の強化	整備計画④-a に移行
	・まちづくり組織の設立	実施済み
4) 払沢の滝周辺整備を推進する取組み	・駐車場の土日有料化による活動費の調達	駐車場の拡幅により混雑緩和が図れるため削除

1) 歩行ネットワークの利用促進

弘沢の滝周辺のウォーキングルートは、平成22年度計画以降に拡充され、本改定計画でさらなる充実を図っている。弘沢の滝から周辺地域や店舗を巡り歩いてもらうため、観光客の立寄りの目的となるような利用促進の取組みを実施する。

項目	取組み内容
エコツーリズム事業との連携によるエコツアーの実施	滝巡り、桜巡り、エコツアーなど、弘沢の滝を含むツアーやプログラムをエコツーリズム事業の一環として取り組む。
食や土産品開発による立寄りの魅力づくり	滝を訪れた人が立ち寄って食事や買い物を楽しめるような、魅力的な食や土産物の開発に取り組む。村内事業者による「ものづくりチャレンジ支援事業補助金」の活用を促進する。

2) 観光周遊を促進する取組み

弘沢の滝は村を代表する観光資源であり、観光客の立寄りが多い場所でもあるため、村内の観光情報の発信基地として以下のような利用促進の取組みを実施する。

項目	取組み内容
弘沢の滝発・周遊観光ルートの情報発信	エコツーリズム事業と連携しながら「檜原村エコツーリズムインフォメーションセンター」の観光案内機能を活用して積極的に情報発信する。
弘沢の滝周辺店舗における観光案内の推進	檜原村観光協会と周辺店舗が相互に情報共有をしながら、観光客が求める情報をマップ等での確に発信・案内できるようにする。村内事業者による「ものづくりチャレンジ支援事業補助金」の活用を促進する。

3) 弘沢の滝周辺整備を推進する取組み

地元住民の協力を得ながら、弘沢の滝周辺の施設整備がより効果的に推進されるように、以下のような取組みを実施する。

項目	取組み内容
まちづくり組織による弘沢の滝整備事業の推進と支援	弘沢の滝冬まつり実行委員会と連携し、活動を支援していく。
既存の清掃活動の継続実施	本宿地区の清掃活動を支援していく。